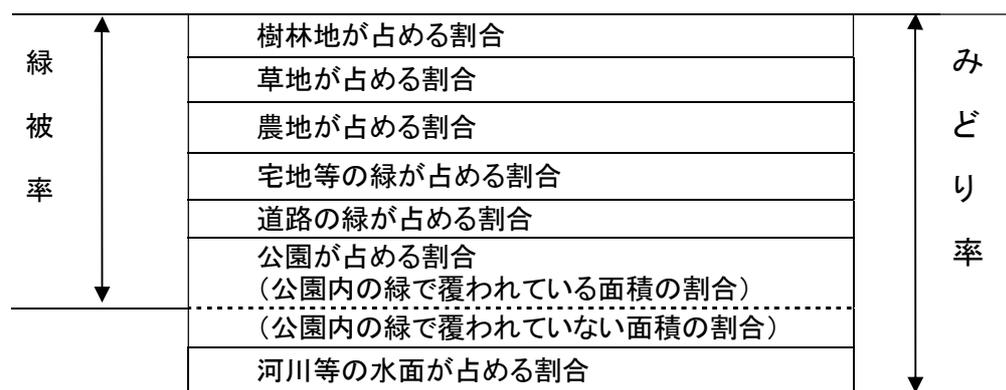


## 第4章 みどり率調査

### 4-1 調査の方法

#### 1) みどり率の定義

みどり率は、ある地域に占める樹林地、草地、宅地内の緑（屋上緑地を含む）、公園、街路樹、河川、水路等の面積が、その地域全体の面積に占める割合をいう。緑被率に「公園内の緑で覆われていない面積の割合」と「河川等の水面が占める割合」を加えたものがみどり率となる。



「緑の東京計画」(平成 12 年 12 月、東京都)より

図 4-1 緑被率とみどり率の関係

#### 2) みどり率の集計

みどり率集計に用いる公園面積は、平成 31 年 4 月 1 日現在供用開始している管理面積とした。

また河川等の水面面積は、平成 28 年度東京都土地利用現況データの「水面」ポリゴンを抽出し、緑被データを重ね合わせたものとする。そのためみどり率における「水面」は行政区域外を含んでおり、区全体面積は 2,344.7ha となる。これは、東京都のみどり率と同様の算出方法である。

## 4-2 みどり率の現況

- 区全体のみどり率は21.1%であった。
- みどり率が最も高い地区は八潮地区の30.6%であった。
- みどり率が最も低い地区は荏原地区の12.3%であった。

地区別のみどり率を表4-1、みどり率分布図を図4-4に示す。

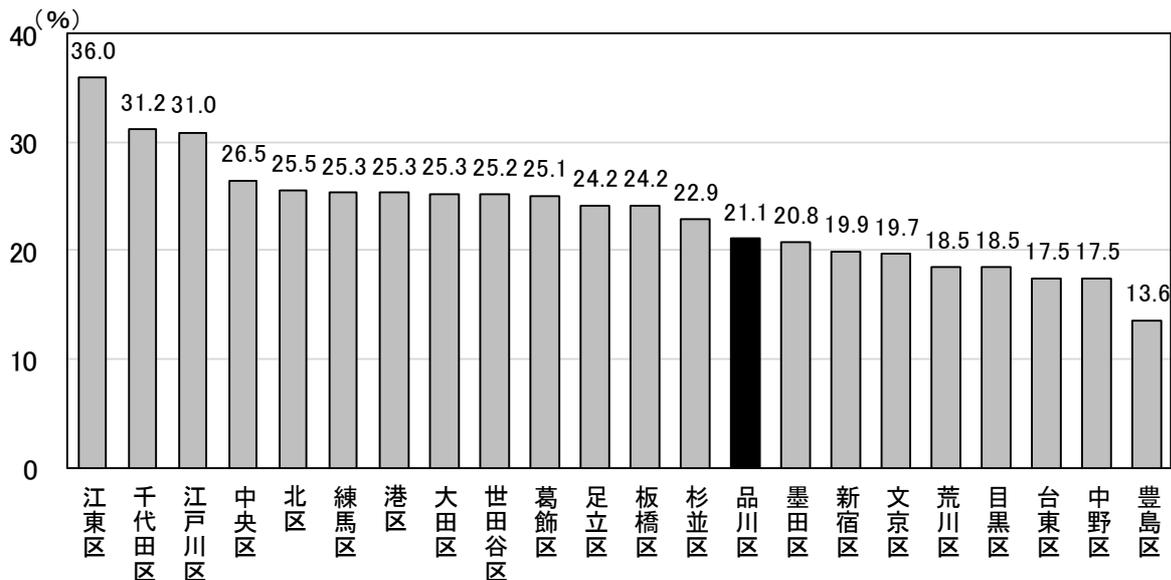
表 4-1 地区別みどり率の状況

地区名	単位	樹木被覆地 (公園以外)	草地 (公園以外)	屋上緑地 (公園以外)	水面 (公園以外)	公園	みどり面積 /みどり率	区域面積
品川地区	面積(ha)	42.1	8.4	3.8	32.3	16.1	102.7	454.0
	割合(%)	9.3	1.8	0.8	7.1	3.5	22.6	100.0
大崎地区	面積(ha)	41.1	5.0	3.7	4.5	3.5	57.8	333.3
	割合(%)	12.3	1.5	1.1	1.4	1.1	17.3	100.0
大井地区	面積(ha)	43.7	10.9	2.7	26.8	27.0	111.1	492.2
	割合(%)	8.9	2.2	0.5	5.4	5.5	22.6	100.0
荏原地区	面積(ha)	43.2	5.5	2.4	0.0	18.0	69.1	560.9
	割合(%)	7.7	1.0	0.4	0.0	3.2	12.3	100.0
八潮地区	面積(ha)	29.7	24.9	0.8	26.7	72.3	154.4	504.3
	割合(%)	5.9	4.9	0.2	5.3	14.3	30.6	100.0
区全体	面積(ha)	199.8	54.7	13.3	90.3	136.9	495.0	2,344.7
	割合(%)	8.5	2.3	0.6	3.9	5.8	21.1	100.0

※小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

参考資料として23区のみどり率を図4-2に示す。

なお、みどり率調査は令和元年時点では全ての区で行っているものではない。またみどり率の考え方が各区によって異なる場合もあり、比較は慎重に行う必要がある。



H29 H30 H18 H29 H30 H28 H28 H30 H28 H20 H29 H26 H29 R01 H30 H27 H30 H19 H26 H30 H28 H27

※各区のみどり率は区ホームページ、その他資料調査による

図 4-2 23区のみどり率

### 4-3 みどり率の経年変化

- 平成26年度調査と令和元年度調査のみどり率の変化は、7.9ha、0.3ポイントの減少であった。

みどり率の変化を表4-2、図4-3に示す。

公園面積は1.4ha、0.1ポイントの増加であるが、公園以外の樹木被覆地の減少が10.8haと大きく、みどり率は減少であった。緑被地は12.9ha、緑被率は0.7ポイントの減少であったが、みどり率は公園内の緑被地の変化が反映されないため、緑被率よりは減少量が小さくなっている。

表 4-2 みどり率の経年変化

項目	平成16年度		平成21年度		平成26年度		令和元年度		変化	
	面積 (ha)	面積率 (%)	面積 (ha)	ポイント差						
樹木被覆地 (公園以外)	203.6	8.7	228.9	9.8	210.6	9.0	199.8	8.5	-10.8	-0.5
草地 (公園以外)	34.7	1.5	42.1	1.8	53.4	2.3	54.7	2.3	1.3	0.1
屋上緑地 (公園以外)	2.4	0.1	7.1	0.3	12.8	0.5	13.3	0.6	0.5	0.0
水面 (公園以外)	91.0	3.9	91.0	3.9	90.6	3.9	90.3	3.9	-0.3	0.0
公園	126.7	5.4	128.0	5.5	135.5	5.8	136.9	5.8	1.4	0.1
<b>みどり面積合計 / みどり率</b>	<b>458.4</b>	<b>19.6</b>	<b>497.1</b>	<b>21.2</b>	<b>502.9</b>	<b>21.4</b>	<b>495.0</b>	<b>21.1</b>	<b>-7.9</b>	<b>-0.3</b>
区域面積	2,344.0	—	2,344.0	—	2,344.6	—	2,344.7	—	—	—

※小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある

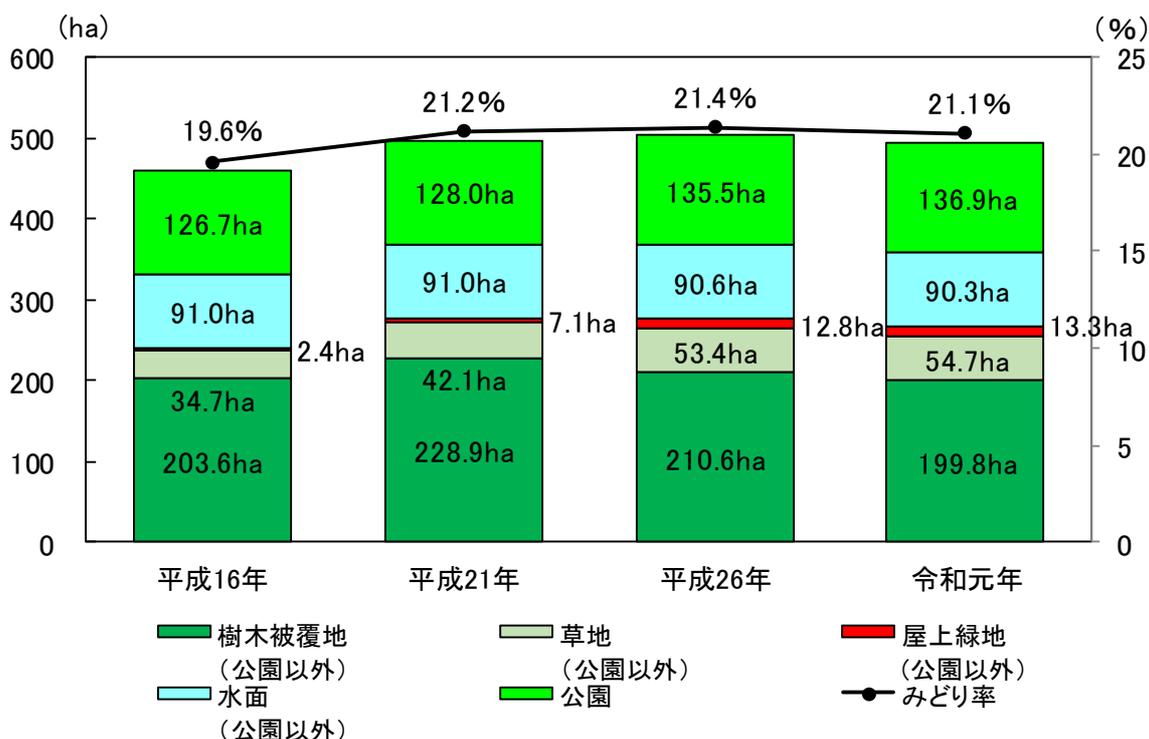
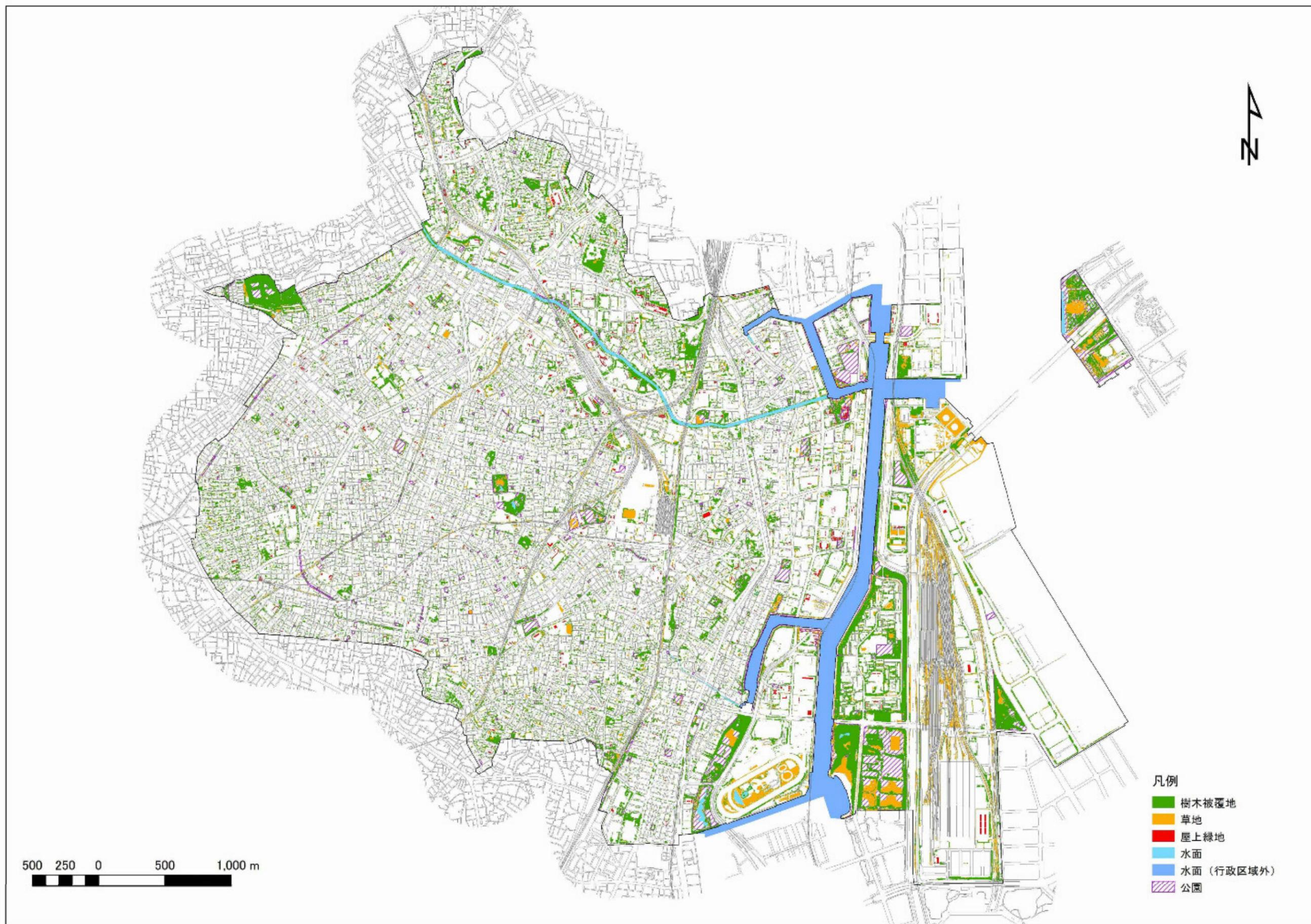


図 4-3 みどり率の変化状況



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)31都市基交著第60号

図 4-4 みどり率分布図

## 第5章 接道部調査

### 5-1 調査の方法

区全域の国道、都道、区道、私道について、現地にて接道部状況を調査した。接道部の区分は表 5-1 のとおりとした。

緑化可能性の高い接道部とは、現在は接道部緑化が行われていないが、生垣や植込み等の接道部緑化を行う空地（幅 50 cm以上とした）、または塀やフェンスを取り壊すことで接道部緑化整備が可能な場合とした。

緑化可能性の低い接道部とは、駐車場等の出入り口に利用、または建物や擁壁等を取り壊さないと接道部緑化整備ができない場合とした。

表 5-1 接道部の区分

区分		内容
接道部緑化	生垣	樹木の列状植栽で樹木間に隙間のない生垣状の植栽。 生垣高さは 90 cm以上とする。 生垣前面にフェンス等がある場合、外観上生垣に見えるものは生垣とする。
	植込み	生垣、緑化フェンス以外の連続性のある植栽。 植栽高さは 30 cm以上とする。 植込みがフェンス越しに見えれば植込とする。 高木の緑化範囲は葉張の幅とする。
	塀上の緑化	塀の上から塀内の植え込み等による緑化が見えるもの。 基準塀高は 1 mとする。
	緑化フェンス	フェンスにツル性植物による緑化が行われているもの。
	その他緑化	塀、擁壁の接道面が緑化されており緑の面を形成しているもの。 緑化された法面。 接道する敷地が樹林等の緑を主体とした土地利用で、接道部に塀等の設置がないもの。
	公園・緑地等	公園・緑地、公園形態の公開性の高い敷地の接道部。
高い緑化可能性の接道部	空地	接道部緑化は行われていないが、緑化スペースがある場合で、緑化スペースの範囲は敷地境界から建物までの距離を 50 cm以上とする。
	塀・フェンス	塀、フェンス等が設置されており、敷地境界から建物までの距離が 50 cm以上あるもの。 基準塀高は 1 mとする。
低い緑化可能性の接道部	緑化可能性無し	敷地境界から建物までの距離が 50 cm未満のもの。 2 m以上が車輛等の出入り口として利用されているもの。 高さ 3 m以上の擁壁。

接道部緑化の事例を図 5-1、緑化可能性の高い事例を図 5-2、緑化可能性の低い事例を図 5-3 に示す。



生垣



植え込み



塀上の緑化



その他緑化

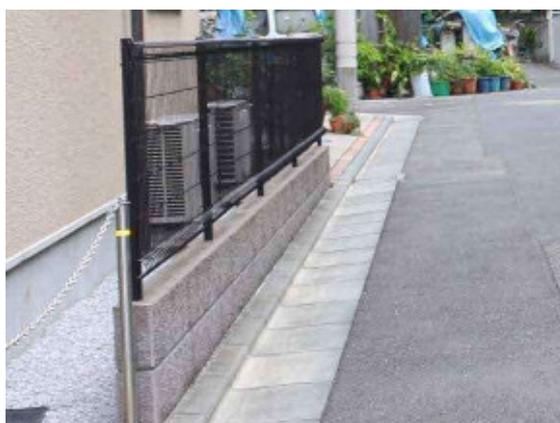


公園・緑地等

図 5-1 接道部緑化の事例



空地



塀・フェンス

図 5-2 緑化可能性の高い接道部の事例



出入口により緑化可能性が低い



建物が有り緑化可能性が低い

図 5-3 緑化可能性の低い接道部の事例

## 5-2 区全体の接道部現況

### 1) 区全体の接道部状況

- 区全体の接道部延長 955.15 kmのうち、接道部緑化は 280.84 km (29.40%)、接道部緑化の可能性が高いものが 204.89 km (21.45%)、接道部緑化の可能性が低いものが 469.42 km (49.15%) であった。  
 ※調査対象とした接道部は、高架道路を除く区内全域の道路（私道、通路を含む）の道路以外の敷地と接する道路縁とした。  
 ※本調査の延長は、調査対象となった接道部延長であり、道路管理延長とは異なる。

区全域の接道部緑化の状況を表 5-2、図 5-4、接道部緑化状況図を図 5-6 に示す。

接道部緑化の内訳は生垣(24.32 km, 2.55%)、植込み(186.39 km, 19.51%)、塀上の緑化(32.04km, 3.35%)、緑化フェンス(1.09 km, 0.11%)、その他緑化(9.11 km, 0.95%)、公園・緑地(27.88 km, 2.92%) であった。

緑化可能性が高いものの内訳は空地(90.96 km, 9.52%)、塀・フェンス(113.93 km, 11.93%) であった。

緑化可能性が低いものは 469.42 km で、接道部全体の約半数の 49.15% であった。

表 5-2 接道部の状況

区分		延長(km)	割合(%)
接道部緑化	生垣	24.32	2.55
	植込み	186.39	19.51
	塀上の緑化	32.04	3.35
	緑化フェンス	1.09	0.11
	その他緑化	9.11	0.95
	公園・緑地	27.88	2.92
	計	280.84	29.40
性緑が化高可能	空地	90.96	9.52
	塀・フェンス	113.93	11.93
	計	204.89	21.45
緑化可能性が低い		469.42	49.15
合計		955.15	100.00

※小数第3位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

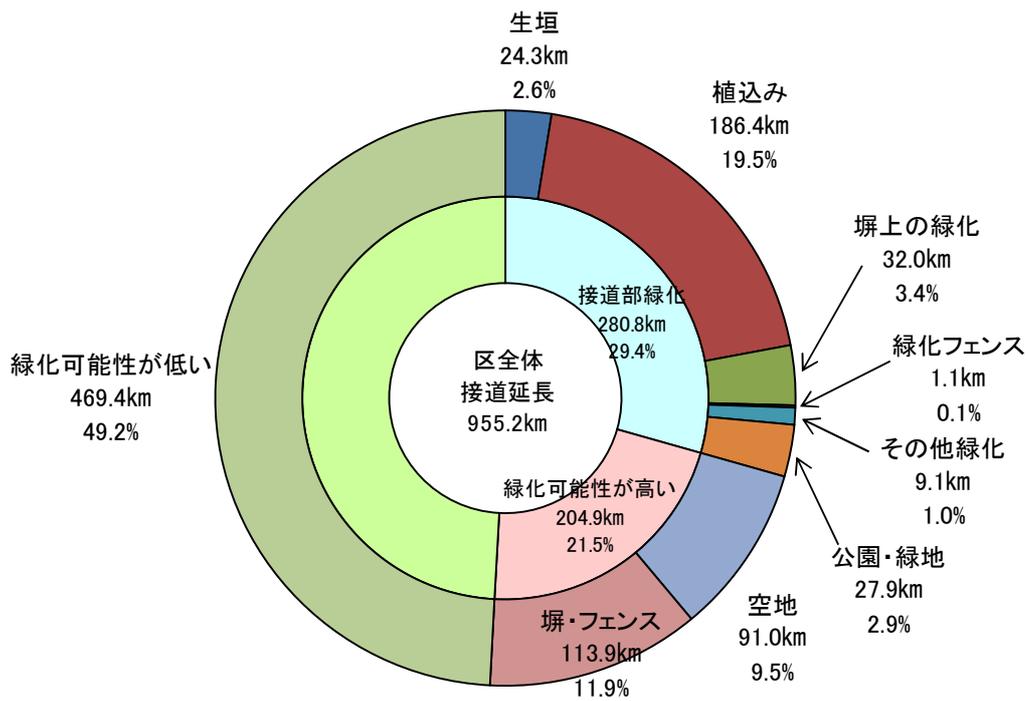


図 5-4 接道部の状況の構成比

## 2) 土地利用別の接道部状況

- 「接道部緑化率」が最も高いのは学校の 63.47%であった。
- 「接道部の緑化可能性が高い率」が最も高いのはその他の 33.40%であった。
- 「接道部の緑化可能性が低い率」が最も高いのが商業施設の 63.53%であった。

民間施設の接道部緑化の状況の構成比を図 5-5、土地利用別の接道部の状況を表 5-3 に示す。

接道部延長の約 9 割を占める民間施設のうち、接道部緑化率が最も高い土地利用は集合住宅の 32.92%、次いで工業施設の 26.60%、独立住宅の 23.48%であり、その他が最も低く 18.60%であった。

集合住宅の接道部緑化の形態では植込みが最も多く、集合住宅の接道部緑化の 75%を占める。次いで多い形態が生垣であった。独立住宅においても植込みが最も多く(独立住宅の接道部緑化の 61%)、次いで塀上の緑化、生垣の順であった。

民間施設での接道部緑化の可能性が高い土地利用は、その他が 33.40%、次いで独立住宅が 23.35%、集合住宅が 20.65%であった。

接道部緑化の可能性が低い土地利用は、商業施設が 63.53%、次いで独立住宅が 53.17%、工業施設が 52.84%であった。

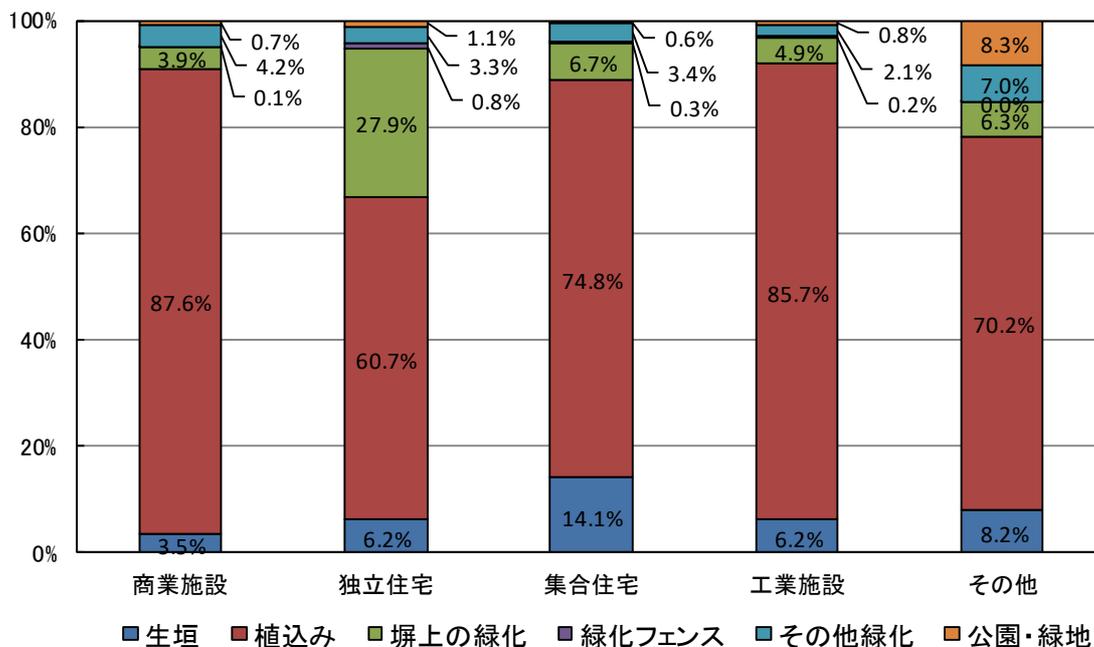


図 5-5 民間施設の接道部緑化の状況の構成比

表 5-3 土地利用別の接道部の状況

土地利用	単位	接道部緑化							
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	計	
学校	延長(km)	2.74	10.37	0.76	0.01	0.38	0.03	14.29	
	割合(%)	12.17	46.07	3.37	0.04	1.70	0.13	63.47	
供給処理施設	延長(km)	0.76	2.49	0.18	0.00	0.10	0.53	4.06	
	割合(%)	11.59	38.11	2.74	0.00	1.51	8.10	62.04	
公園、道路、鉄道等	延長(km)	0.56	9.10	0.28	0.11	0.24	24.46	34.75	
	割合(%)	0.97	15.72	0.48	0.19	0.42	42.25	60.03	
その他の公共公益委施設	延長(km)	0.73	5.84	0.79	0.05	0.70	0.12	8.23	
	割合(%)	4.32	34.65	4.71	0.29	4.14	0.69	48.80	
社寺境内地	延長(km)	0.25	2.12	1.61	0.00	0.03	0.10	4.11	
	割合(%)	2.64	22.73	17.26	0.00	0.37	1.10	44.11	
民間施設	商業施設	延長(km)	1.17	29.14	1.29	0.04	1.38	0.24	33.27
		割合(%)	0.71	17.82	0.79	0.03	0.84	0.15	20.34
	独立住宅	延長(km)	4.42	43.53	20.03	0.56	2.34	0.82	71.69
		割合(%)	1.45	14.26	6.56	0.18	0.77	0.27	23.48
	集合住宅	延長(km)	11.80	62.52	5.62	0.29	2.81	0.51	83.56
		割合(%)	4.65	24.63	2.22	0.11	1.11	0.20	32.92
	工業施設	延長(km)	0.97	13.32	0.76	0.03	0.33	0.13	15.55
		割合(%)	1.66	22.79	1.31	0.06	0.57	0.22	26.60
	その他	延長(km)	0.92	7.95	0.72	0.00	0.79	0.94	11.32
		割合(%)	1.52	13.06	1.18	0.00	1.30	1.55	18.60
	計	延長(km)	19.28	156.46	28.42	0.93	7.66	2.64	215.40
		割合(%)	2.29	18.58	3.38	0.11	0.91	0.31	25.58

土地利用	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長	
	空地	塀・フェンス	計			
学校	2.04	1.86	3.90	4.32	22.51	
	9.08	8.24	17.32	19.20	100.00	
供給処理施設	1.03	0.50	1.53	0.95	6.55	
	15.80	7.59	23.38	14.58	100.00	
公園、道路、鉄道等	8.72	3.04	11.76	11.38	57.89	
	15.06	5.25	20.31	19.65	100.00	
その他の公共公益委施設	1.31	1.48	2.80	5.84	16.87	
	7.78	8.79	16.57	34.63	100.00	
社寺境内地	1.82	0.66	2.48	2.73	9.31	
	19.54	7.04	26.58	29.31	100.00	
民間施設	商業施設	6.21	20.17	26.38	103.91	163.57
		3.80	12.33	16.13	63.53	100.00
	独立住宅	31.05	40.23	71.27	162.32	305.28
		10.17	13.18	23.35	53.17	100.00
	集合住宅	21.33	31.09	52.42	117.84	253.82
		8.40	12.25	20.65	46.43	100.00
	工業施設	6.58	5.45	12.03	30.90	58.48
		11.25	9.31	20.56	52.84	100.00
	その他	10.86	9.47	20.33	29.22	60.88
		17.84	15.55	33.40	48.00	100.00
	計	76.03	106.40	182.43	444.20	842.02
		9.03	12.64	21.67	52.75	100.00

※小数第3位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

## 3) 区全体の接道部状況変化

区全体の接道部状況の変化を表 5-4、土地利用別の接道部状況の変化を表 5-5 に示す。

平成 26 年度調査の接道部延長は 934.11 km、令和元年度調査では 955.15 km であった。接道部緑化延長は 9.54 km の増加、接道部緑化の可能性が低い接道部形態は 16.17 km の増加、接道部緑化の可能性が高い形態は 4.68 km 減少であった。

接道部緑化の内訳では、植込みが 22.86 km (2.01 ポイント)、その他緑化が 0.36km (0.02 ポイント)、公園緑地が 0.47km (-0.02 ポイント) 増であった。減少は塀上の緑化 10.75 km (1.23 ポイント)、生垣 2.92 km (0.37 ポイント)、緑化フェンス 0.48km (0.05 ポイント) 減少であった。

また、接道部緑化の可能性が高い接道形態では空地が 49.40 km (5.50 ポイント) 減少、塀・フェンスが 44.72 km (4.52 ポイント) 増加であった。

土地利用別の接道部延長は、独立住宅 20.96 km、集合住宅 15.61 km と増加が大きい。独立住宅の接道形態では、接道部緑化の可能性が低いものが 23.46 km、塀・フェンスが 10.16 km の増加であった。一方で接道部緑化の延長は 5.06 km 減少している。近年の独立住宅の建築では、接道部全面を駐車場利用しているものが多く、接道部緑化の可能性が低い形態が増えていると考えられる。集合住宅の接道部形態では、接道部緑化延長は 9.27 km の増加であった。特に植込みの増加が大きい。接道部緑化の可能性が低い形態も 5.14 km 増加しているが、独立住宅と比較すると増加量は小さい。規模の大きい集合住宅では、緑化指導等により計画的に接道部緑化が行われていることから、接道部緑化延長も増加したものと考えられる。

表 5-4 区全体の接道部状況の変化

区分		平成26年調査		令和元年調査		増減	
		延長(km)	割合(%)	延長(km)	割合(%)	延長(km)	ポイント差
接道部緑化	生垣	27.24	2.92	24.32	2.55	-2.92	-0.37
	植込み	163.53	17.51	186.39	19.51	22.86	2.01
	塀上の緑化	42.79	4.58	32.04	3.35	-10.75	-1.23
	緑化フェンス	1.58	0.17	1.09	0.11	-0.48	-0.05
	その他緑化	8.75	0.94	9.11	0.95	0.36	0.02
	公園・緑地	27.41	2.93	27.88	2.92	0.47	-0.02
	計	271.30	29.04	280.84	29.40	9.54	0.36
緑化可能性が高い	空地	140.36	15.03	90.96	9.52	-49.40	-5.50
	塀・フェンス	69.21	7.41	113.93	11.93	44.72	4.52
	計	209.57	22.43	204.89	21.45	-4.68	-0.98
緑化可能性が低い		453.25	48.52	469.42	49.15	16.17	0.62
合計		934.11	100.00	955.15	100.00	21.03	-

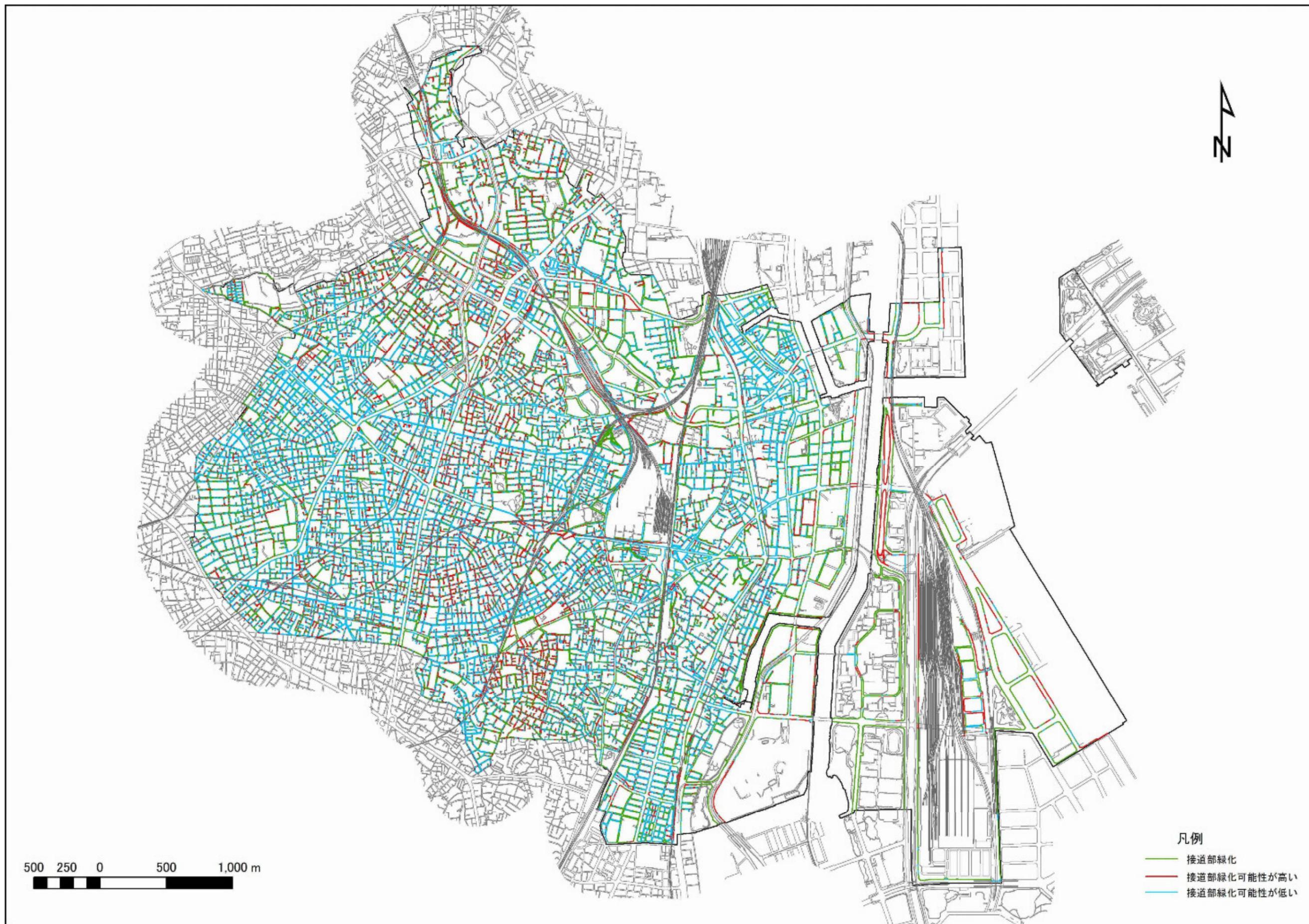
※小数第 3 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

表 5-5 土地利用別の接道部状況の変化

土地利用	単位	接道部緑化							
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	計	
学校	延長(km)	-0.52	1.37	-0.85	-0.08	0.23	-0.20	-0.03	
	割合(%)	-1.53	8.22	-3.41	-0.32	1.07	-0.81	3.22	
供給処理施設	延長(km)	0.52	0.99	-0.04	0.00	0.09	0.44	2.01	
	割合(%)	7.11	9.36	-1.53	0.00	1.42	6.41	22.77	
公園、道路、鉄道等	延長(km)	-0.35	3.11	-0.06	0.00	-0.34	1.25	3.61	
	割合(%)	-0.61	5.29	-0.11	0.00	-0.60	1.82	5.78	
その他の公共公益施設	延長(km)	-0.03	1.05	0.08	0.01	0.39	-0.12	1.38	
	割合(%)	-0.88	1.93	-0.19	0.04	2.05	-0.94	2.01	
社寺境内地	延長(km)	-0.05	-0.23	0.13	-0.01	-0.03	-0.05	-0.24	
	割合(%)	-0.57	-2.78	1.21	-0.06	-0.30	-0.55	-3.06	
民間施設	商業施設	延長(km)	-0.04	2.43	-0.30	-0.05	-0.09	-0.95	1.01
		割合(%)	0.00	2.00	-0.15	-0.03	-0.02	-0.56	1.24
	独立住宅	延長(km)	-1.04	3.16	-7.69	-0.04	-0.06	0.61	-5.06
		割合(%)	-0.47	0.06	-3.19	-0.03	-0.08	0.19	-3.51
	集合住宅	延長(km)	-1.20	12.34	-1.68	-0.26	0.16	-0.10	9.27
		割合(%)	-0.81	3.57	-0.85	-0.12	-0.01	-0.05	1.73
	工業施設	延長(km)	-0.31	0.75	-0.14	-0.03	-0.05	0.05	0.26
		割合(%)	-0.37	2.91	-0.12	-0.04	-0.03	0.09	2.44
	その他	延長(km)	0.09	-2.12	-0.19	-0.04	0.05	-0.45	-2.66
		割合(%)	0.32	-1.50	-0.14	-0.06	0.23	-0.47	-1.62
	計	延長(km)	-2.50	16.57	-10.00	-0.42	0.02	-0.85	2.82
		割合(%)	-0.35	1.60	-1.29	-0.05	-0.02	-0.11	-0.22
	合計	延長(km)	-2.92	22.86	-10.75	-0.48	0.36	0.47	9.54
		割合(%)	-0.37	2.01	-1.23	-0.05	0.02	-0.02	0.36

土地利用	単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	合計	
		空地	塀・フェンス	計			
学校	延長(km)	-1.05	-0.38	-1.44	0.21	-1.26	
	割合(%)	-3.94	-1.18	-5.12	1.90	0.00	
供給処理施設	延長(km)	-0.77	0.10	-0.66	-0.03	1.31	
	割合(%)	-18.59	0.06	-18.53	-4.23	0.00	
公園、道路、鉄道等	延長(km)	-2.26	0.55	-1.71	-1.42	0.48	
	割合(%)	-4.07	0.92	-3.14	-2.64	0.00	
その他の公共公益施設	延長(km)	-0.73	0.84	0.11	0.74	2.22	
	割合(%)	-6.18	4.41	-1.77	-0.24	0.00	
社寺境内地	延長(km)	1.22	-1.03	0.19	0.15	0.10	
	割合(%)	13.01	-11.25	1.76	1.30	0.00	
民間施設	商業施設	延長(km)	-13.73	16.34	2.60	-8.93	-5.32
		割合(%)	-8.01	10.06	2.05	-3.29	0.00
	独立住宅	延長(km)	-7.60	10.16	2.56	23.46	20.96
		割合(%)	-3.42	2.60	-0.82	4.33	0.00
	集合住宅	延長(km)	-11.12	12.33	1.21	5.14	15.61
		割合(%)	-5.22	4.37	-0.85	-0.89	0.00
	工業施設	延長(km)	-3.03	1.16	-1.87	-3.21	-4.81
		割合(%)	-3.93	2.54	-1.39	-1.05	0.00
	その他	延長(km)	-10.33	4.64	-5.68	0.08	-8.27
		割合(%)	-12.80	8.58	-4.22	5.85	0.00
	計	延長(km)	-45.81	44.64	-1.17	16.53	18.17
		割合(%)	-5.76	5.14	-0.62	0.84	0.00
	合計	延長(km)	-49.40	44.72	-4.68	16.17	21.03
		割合(%)	-5.50	4.52	-0.98	0.62	0.00

※小数第3位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)31都市基交著第60号

図5-6 接道部緑化状況図

### 5-3 地区別の接道部の状況

#### 1) 地区別の接道部状況

- 「接道部緑化率」が最も高い地区は八潮地区の61.75%であった。
- 「接道部緑化の可能性が高い率」が最も高い地区は大崎地区の28.24%であった。
- 「接道部緑化の可能性の低い率」が最も高い地区は荏原地区の56.11%であった。

地区別の接道部状況を図 5-7、地区別の接道部状況の構成比を図 5-8 に示す。

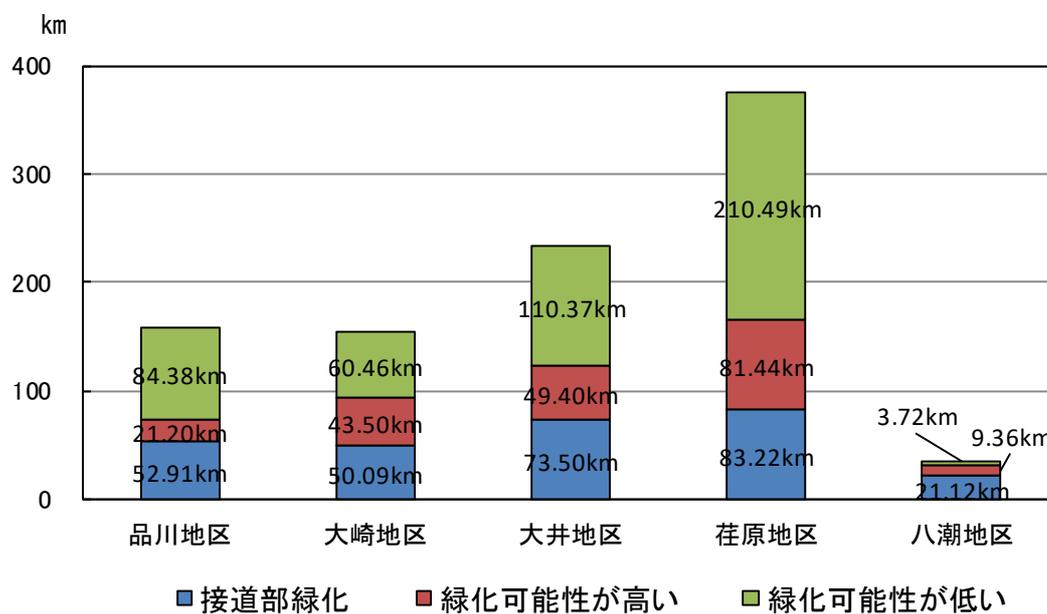


図 5-7 地区別の接道部状況

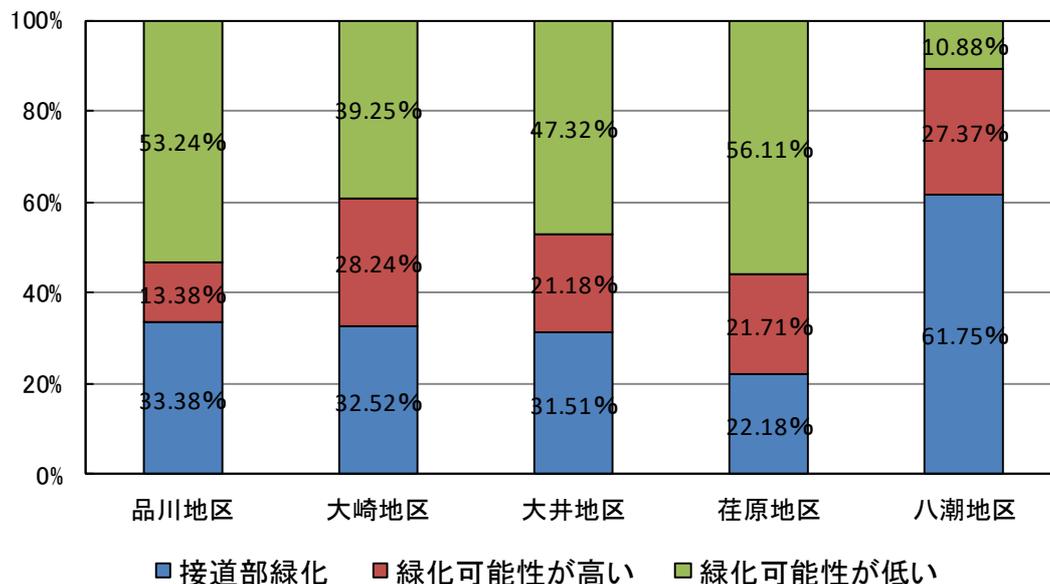


図 5-8 地区別の接道部状況の構成比

① 品川地区

品川地区の接道部延長は 158.49 km で、区全体の接道部延長の約 17% である。

接道部緑化延長は 52.91 km、接道部緑化率は 33.38% で 5 地区中 2 番目に高い。

接道部緑化のうち植込みが 41.41 km、接道部全体の 26.13%、次いで塀上の緑化が 4.41 km、2.78%、生垣が 2.58 km、1.63% であり、接道部緑化の約 8 割が植込みであった。

接道部緑化の可能性が高い接道部形態の割合は 13.38% で 5 地区中最も低く、空地が 14.74 km、塀・フェンスが 6.46 km であった。

接道部緑化の可能性の低い接道部形態では 84.38 km、接道部全体の 53.24% を占め、その割合は 5 地区中 2 番目に高い。

表 5-6 品川地区の接道部状況

地区	単位	接道部緑化						計
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	
品川地区	延長(km)	2.58	41.41	4.41	0.08	0.58	3.85	52.91
	割合(%)	1.63	26.13	2.78	0.05	0.37	2.43	33.38

地区	単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長	区全体の割合
		空地	塀・フェンス	計			
品川地区	延長(km)	14.74	6.46	21.20	84.38	158.49	17%
	割合(%)	9.30	4.07	13.38	53.24	100.00	

※小数第 3 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

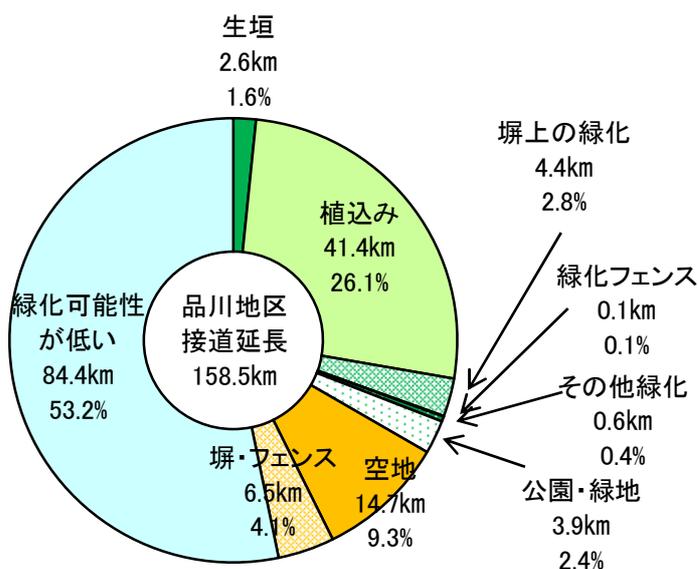


図 5-9 品川地区の接道部状況の構成比

## ② 大崎地区

大崎地区の接道部延長は 154.05 km で、区全体の接道部延長の約 16% である。

接道部緑化延長は 50.09 km、接道部緑化率は 32.52% で 5 地区中 3 番目に高い。

接道部緑化のうち植込みが 37.25 km、接道部全体の 24.18%、次いで塀上の緑化が 5.20 km、3.38%、生垣が 3.76 km、2.44% であった。

接道部緑化の可能性が高い接道部形態は、接道部全体の 28.24% で、5 地区中では最も高い。塀・フェンスが 27.35 km、空地が 16.15 km で、特に塀・フェンスの割合が高い。

接道部緑化の可能性の低い接道部形態は、60.46 km、接道部全体の 39.25% で、5 地区中ではその割合は低い。

表 5-7 大崎地区の接道部状況

地区	単位	接道部緑化						計
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	
大崎地区	延長(km)	3.76	37.25	5.20	0.07	2.11	1.70	50.09
	割合(%)	2.44	24.18	3.38	0.05	1.37	1.10	32.52

地区	単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長	区全体の割合
		空地	塀・フェンス	計			
大崎地区	延長(km)	16.15	27.35	43.50	60.46	154.05	16%
	割合(%)	10.49	17.75	28.24	39.25	100.00	

※小数第 3 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

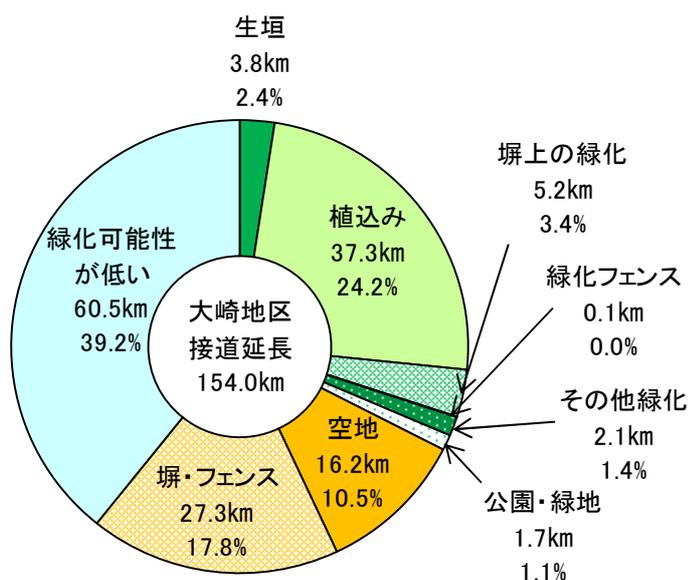


図 5-10 大崎地区の接道部状況の構成比

③ 大井地区

大井地区の接道部延長は 233.26 km で、区全体の接道部延長の約 24% である。

接道部緑化延長は 73.50 km、接道部緑化率は 31.51% で、5 地区中 4 番目に高い。

接道部緑化のうち植込みが 46.11 km、接道部全体の 19.77%、次いで塀上の緑化が 8.48 km、3.63%、生垣が 8.24 km、3.53%、公園・緑地が 7.80 km、3.34% であった。生垣の占める割合は 5 地区中最も高い。

接道部緑化の可能性が高い接道部形態は 49.40 km、接道部全体の 21.18% であった。内訳では塀・フェンスが 27.24 km、空地が 22.15 km であった。

接道部緑化の可能性の低い接道部形態は 110.37 km、接道部全体の 47.32% であり、5 地区中 3 番目に高い。

表 5-8 大井地区の接道部状況

地区	単位	接道部緑化						計
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	
大井地区	延長(km)	8.24	46.11	8.48	0.29	2.59	7.80	73.50
	割合(%)	3.53	19.77	3.63	0.12	1.11	3.34	31.51

地区	単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長	区全体の割合
		空地	塀・フェンス	計			
大井地区	延長(km)	22.15	27.24	49.40	110.37	233.26	24%
	割合(%)	9.50	11.68	21.18	47.32	100.00	

※小数第 3 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

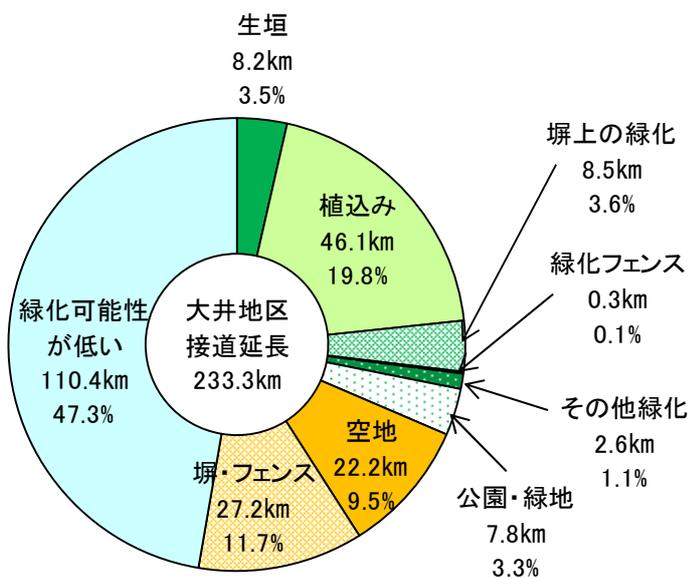


図 5-11 大井地区の接道部状況の構成比

## ④ 荏原地区

荏原地区の接道部延長は 375.14 km で、区全体の接道部延長の約 39% である。

接道部緑化延長は 83.22 km、接道部緑化率は 22.18% で、5 地区中最も低い。

接道部緑化のうち植込みが 51.25 km、接道部全体の 13.66%、次いで塀上の緑化が 13.72 km、3.66%、生垣が 9.13 km、2.43% であった。

接道部緑化の可能性が高い接道部形態は 81.44 km、接道部全体の 21.71% で 5 地区中 3 番目に高い。塀・フェンスは 52.80 km、空地は 28.63 km であった

接道部緑化の可能性の低い接道部形態は 210.49 km、接道部全体の 56.11% を占めており、その割合は 5 地区中最も高い。

表 5-9 荏原地区の接道部状況

地区	単位	接道部緑化						計
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	
荏原地区	延長(km)	9.13	51.25	13.72	0.65	2.37	6.09	83.22
	割合(%)	2.43	13.66	3.66	0.17	0.63	1.62	22.18

地区	単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長	区全体の割合
		空地	塀・フェンス	計			
荏原地区	延長(km)	28.63	52.80	81.44	210.49	375.14	39%
	割合(%)	7.63	14.08	21.71	56.11	100.00	

※小数第 3 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

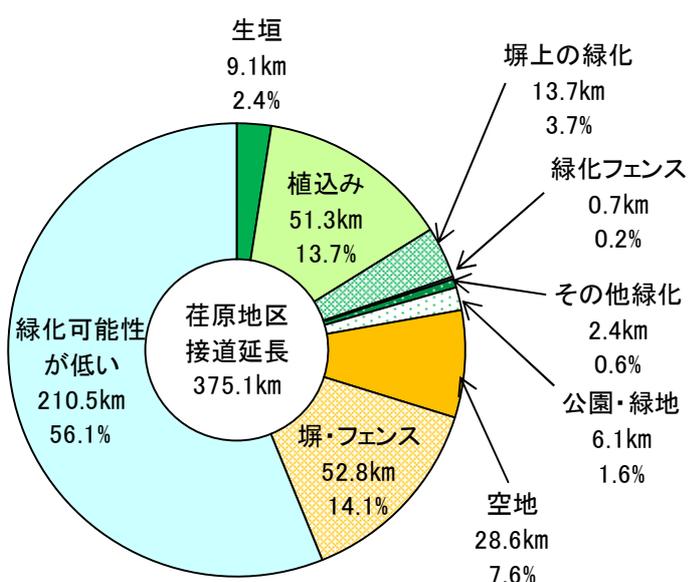


図 5-12 荏原地区の接道部状況の構成比

⑤ 八潮地区

八潮地区の接道部延長は 34.20 km で、区全体の接道部延長の約 4% と非常に少ない。

接道部緑化延長は 21.12 km、接道部緑化率は 61.75% で 5 地区中最も高い。

接道部緑化のうち、植込みが 10.37 km、接道部全体の 30.32%、次いで公園・緑地が 8.45 km、24.71% であった。

接道部緑化の可能性が高い接道部形態は 9.36 km、接道部全体の 27.37% であった。ほとんどが空地で 9.28 km であった。

接道部緑化の可能性の低い接道部形態は 3.72 km、接道部全体の 10.88% であった。

表 5-10 八潮地区の接道部状況

地区	単位	接道部緑化						
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	計
八潮地区	延長(km)	0.61	10.37	0.23	0.00	1.46	8.45	21.12
	割合(%)	1.77	30.32	0.68	0.00	4.28	24.71	61.75

地区	単位	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長	区全体の割合
		空地	塀・フェンス	計			
八潮地区	延長(km)	9.28	0.08	9.36	3.72	34.20	4%
	割合(%)	27.13	0.24	27.37	10.88	100.00	

※小数第3位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

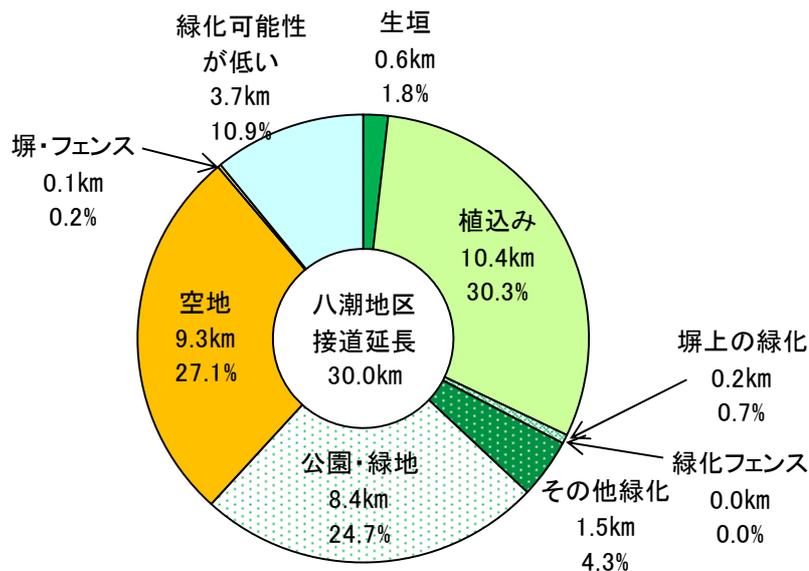


図 5-13 八潮地区の接道部状況の構成比

## 2) 地区別の接道部状況変化

地区別の接道部状況の変化を表 5-11、5-12 に示す。

接道部延長は八潮地区では減少しているが、その他の地区は増加であった。

接道部緑化延長は、品川地区、大崎地区、大井地区では増加しており、荏原地区と八潮地区は減少であった。最も延長が増加した地区は大井地区で、5.59 kmの増加であった。次いで大崎地区が 3.68 km、品川地区が 3.55 kmの増加であった。八潮地区を除く 4 地区では植込みの延長が増加しており、増加が大きい地区は品川地区 (9.25 km増)、大井地区 (7.28 km増) であった。

接道部緑化の可能性が高い形態では、大崎地区と荏原地区は増加したが、品川地区、大井地区、八潮地区では減少した。

接道部緑化の可能性が低い形態では、大崎地区と八潮地区では減少したが、品川地区、大井地区、荏原地区は増加しており、品川地区では 15.11 kmと増加量が大きい。

表 5-11 地区別の接道部状況の変化 (1)

単位: km

地区	調査年	接道部緑化延長						
		生垣	植込み	塀上の緑化	緑化フェンス	その他緑化	公園・緑地	計
品川地区	平成26年	5.69	32.15	5.60	0.19	1.27	4.46	49.37
	令和元年	2.58	41.41	4.41	0.08	0.58	3.85	52.91
	変化	-3.11	9.25	-1.19	-0.11	-0.69	-0.61	3.55
大崎地区	平成26年	3.90	32.02	6.21	0.22	2.36	1.70	46.41
	令和元年	3.76	37.25	5.20	0.07	2.11	1.70	50.09
	変化	-0.14	5.23	-1.01	-0.15	-0.25	-0.01	3.68
大井地区	平成26年	8.05	38.83	11.57	0.32	1.07	8.06	67.91
	令和元年	8.24	46.11	8.48	0.29	2.59	7.80	73.50
	変化	0.19	7.28	-3.09	-0.04	1.52	-0.26	5.59
荏原地区	平成26年	9.39	47.47	19.17	0.80	3.99	5.24	86.06
	令和元年	9.13	51.25	13.72	0.65	2.37	6.09	83.22
	変化	-0.26	3.78	-5.45	-0.15	-1.62	0.86	-2.85
八潮地区	平成26年	0.22	13.05	0.25	0.04	0.05	7.95	21.55
	令和元年	0.61	10.37	0.23	0.00	1.46	8.45	21.12
	変化	0.39	-2.69	-0.01	-0.04	1.41	0.50	-0.44
合計	平成26年	27.24	163.53	42.79	1.58	8.75	27.41	271.30
	令和元年	24.32	186.39	32.04	1.09	9.11	27.88	280.84
	変化	-2.92	22.86	-10.75	-0.48	0.36	0.47	9.54

※小数第 3 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

表 5-12 地区別の接道部状況の変化 (2)

単位: km

地区	調査年	接道部緑化可能性が高い			接道部緑化可能性が低い	接道部延長計
		空地	塀・フェンス	計		
品川地区	平成26年	23.44	10.11	33.55	69.27	152.19
	令和元年	14.74	6.46	21.20	84.38	158.49
	変化	-8.70	-3.65	-12.35	15.11	6.30
大崎地区	平成26年	16.25	9.37	25.62	78.93	150.96
	令和元年	16.15	27.35	43.50	60.46	154.05
	変化	-0.10	17.97	17.88	-18.47	3.09
大井地区	平成26年	39.31	17.95	57.26	98.48	223.65
	令和元年	22.15	27.24	49.40	110.37	233.26
	変化	-17.16	9.29	-7.87	11.89	9.62
荏原地区	平成26年	49.62	31.56	81.18	202.38	369.62
	令和元年	28.63	52.80	81.44	210.49	375.14
	変化	-20.99	21.24	0.26	8.11	5.52
八潮地区	平成26年	11.74	0.22	11.95	4.19	37.69
	令和元年	9.28	0.08	9.36	3.72	34.20
	変化	-2.46	-0.13	-2.59	-0.47	-3.49
合計	平成26年	140.36	69.21	209.57	453.25	934.11
	令和元年	90.96	113.93	204.89	469.42	955.15
	変化	-49.40	44.72	-4.68	16.17	21.03

※小数第3位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

## 5-4 町目別の接道部状況

町別の接道部緑化率の状況図を図 5-14 に示す。

接道部緑化率が高い町は、臨海部の八潮（61.75%）、勝島（61.63%）、東品川（42.80%）である。公園緑地、大規模な供給処理施設等の分布が多く、それらの施設の接道部緑化率が高いことによる。

接道部緑化率が低い町は東中延（14.17%）、二葉（18.54%）、戸越（18.59%）であり、区中央部に接道部緑化率の低い町の分布が多い。

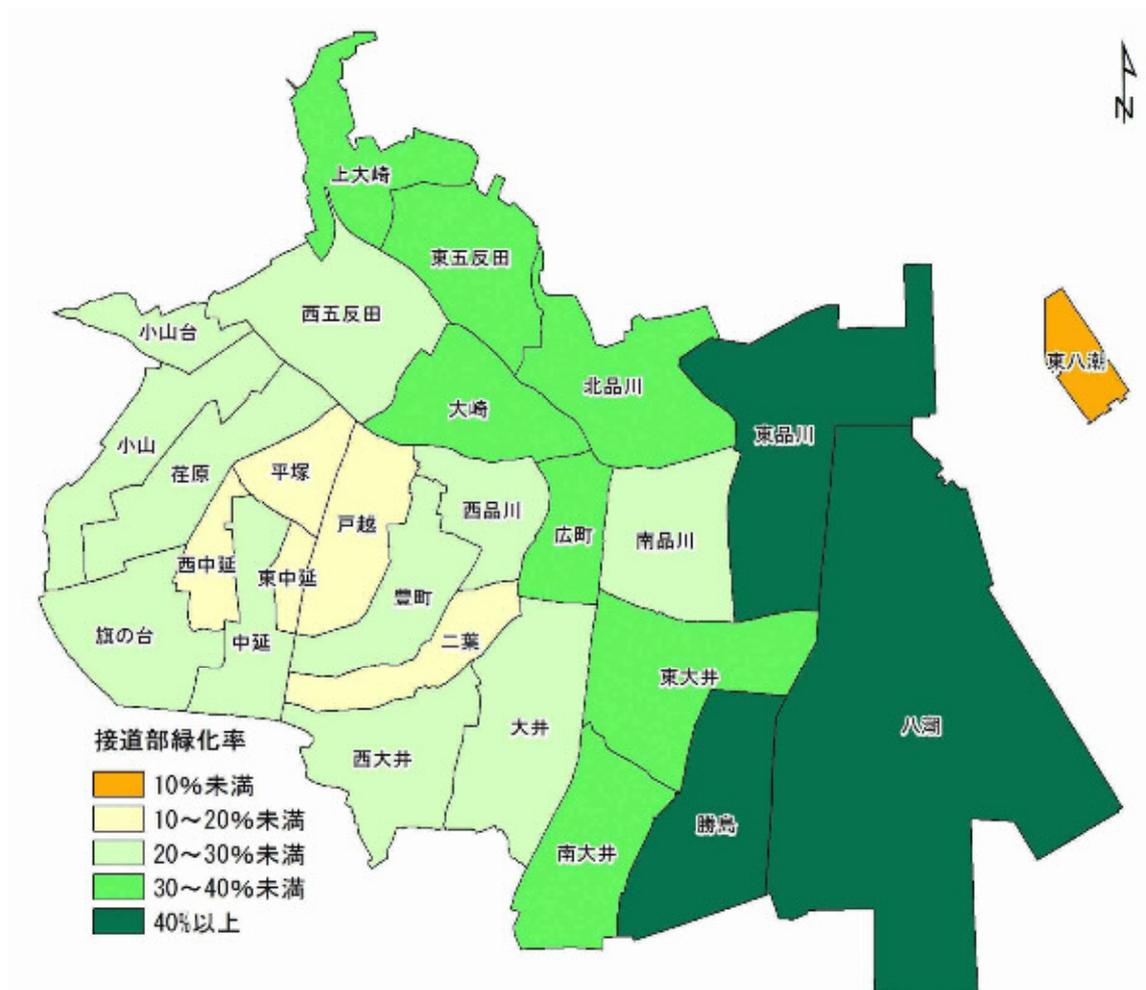


図 5-14 町別の接道部緑化率状況

### 5—5 町丁目別の接道部状況

町丁目別の接道部緑化率の状況を図 5-15 に示す。詳細は資料編(4)町丁目別接道部状況に示す。

接道部緑化率は高い順に八潮四丁目 (95.91%)、勝島三丁目 (91.83%)、八潮五丁目 (81.20%)、勝島一丁目 (60.28%)、八潮三丁目 (57.82%) であった。

接道部緑化率が低い順では東中延一丁目 (12.10%)、二葉三丁目 (12.72%)、西五反田一丁目 (14.34%)、豊町五丁目 (14.38%) であった。

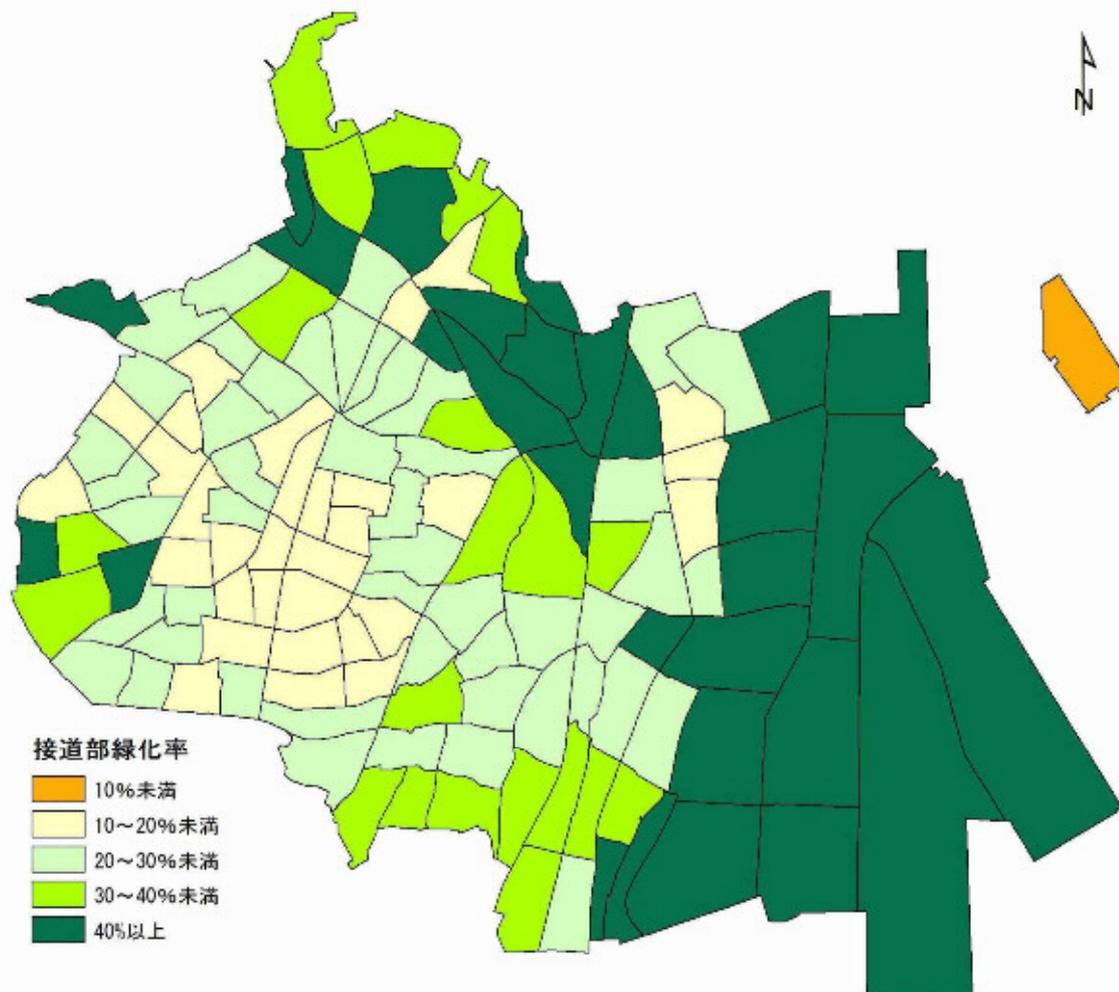


図 5-15 町丁目別の接道部緑化率状況

町丁目別の「接道部緑化の可能性が高い」率の状況を図 5-16、「接道部緑化の可能性が低い」率の状況を図 5-17 に示す。

緑化可能性が高い率が高い町丁目は、西大井二丁目 (45.36%)、西大井一丁目 (42.02%)、八潮一丁目 (41.00%)、西五反田八丁目 (40.71%)、豊町六丁目 (40.34%) であった。

緑化可能性が低い率が高い町丁目は小山四丁目 (74.25%)、荏原三丁目 (72.92%)、南品川一丁目 (72.35%)、北品川二丁目 (72.09%)、中延五丁目 (69.23%) であった。

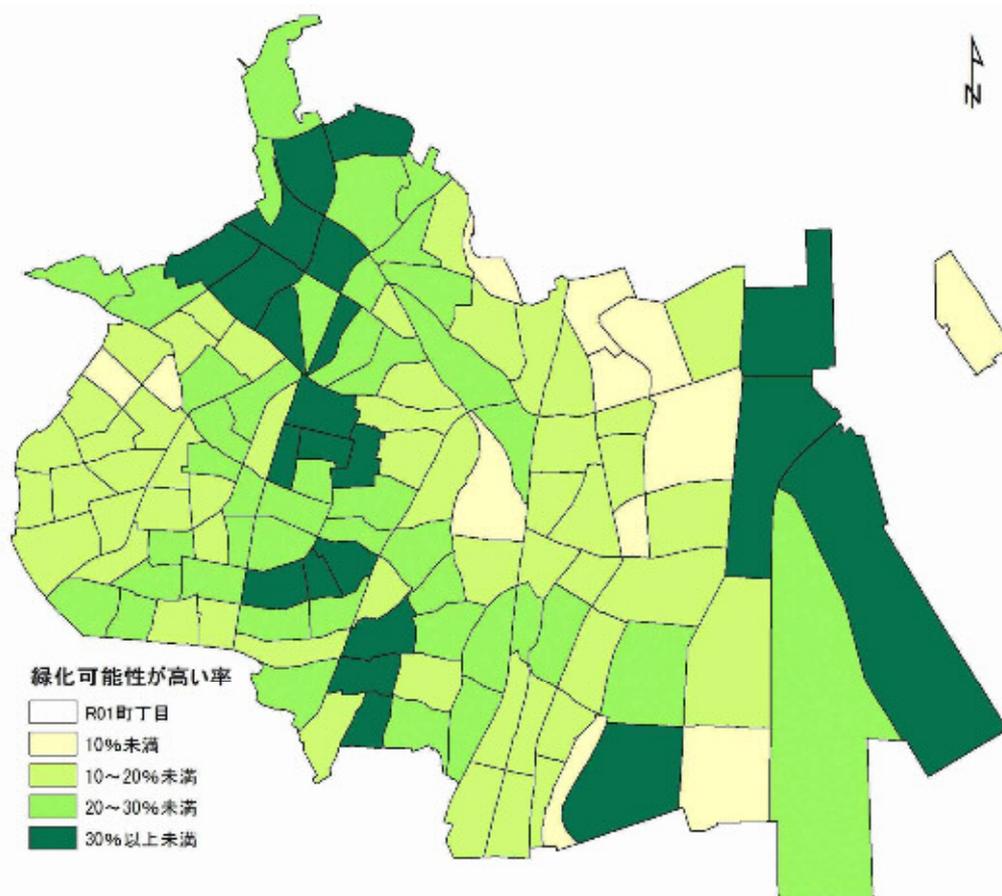


図 5-16 町丁目別の接道部緑化可能性が高い率の状況

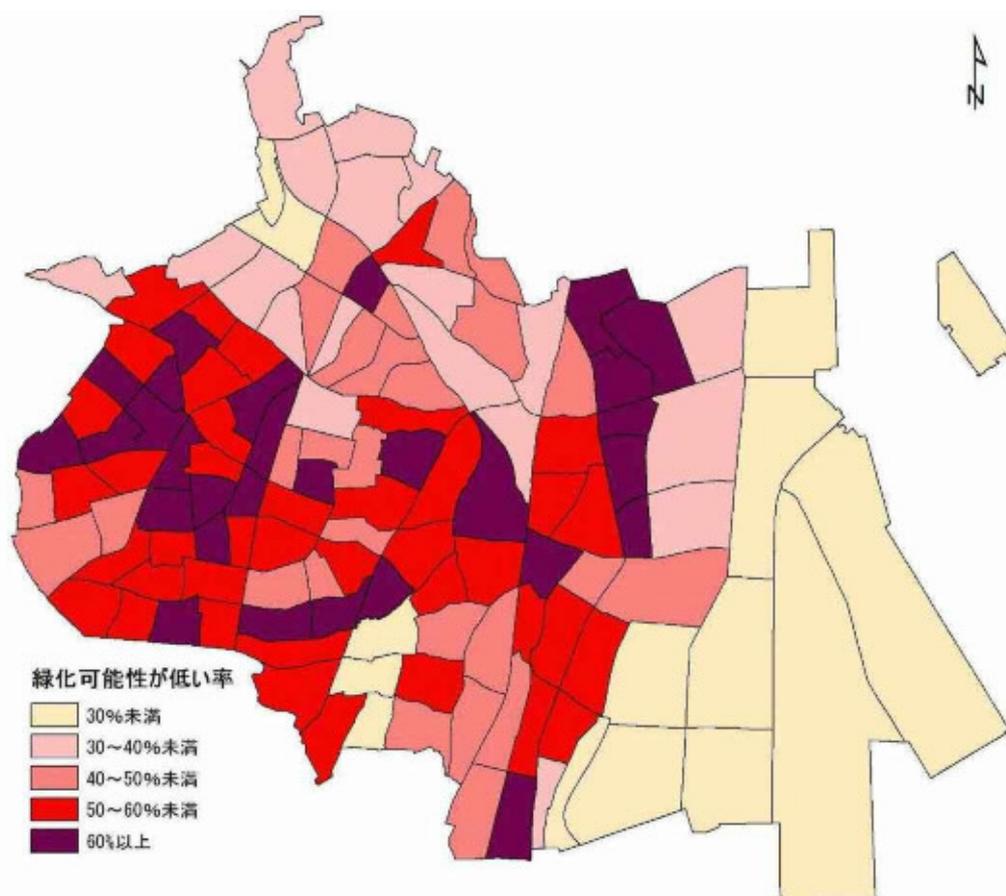


図 5-17 町丁目別の接道部緑化可能性が低い率の状況

## 第6章 屋上緑地調査

### 6-1 調査の方法

屋上緑地は、空中写真から判読できる建物の屋上、ベランダ、人工地盤上にある緑被地を対象として、第3章緑被地調査で得られた屋上緑地について、建物1棟を1箇所として集計を行った。

### 6-2 区全体の屋上緑地現況

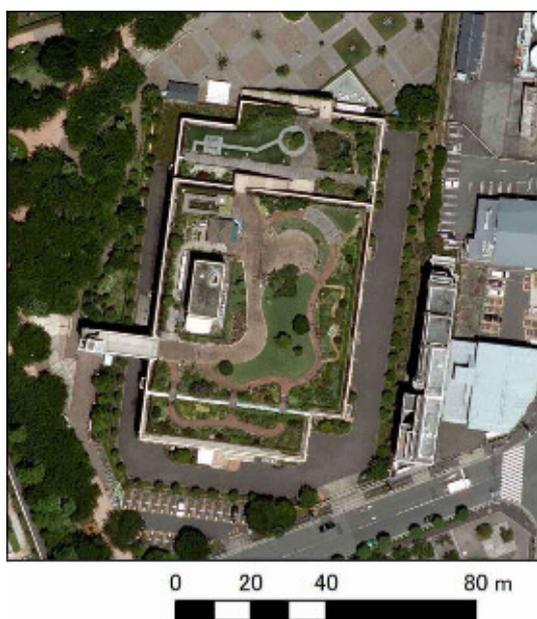
#### 1) 区全体の屋上緑地状況

- 区全体の屋上緑地は2,549箇所、135,821㎡であった。

屋上緑地の事例を図6-1、屋上緑地分布図を図6-2に示す。

区全体では2,549箇所の屋上緑地が確認できた。面積は135,821㎡で1箇所当たりの面積は53㎡であった。

屋上緑地面積が最も大きい建築物は北品川六丁目のガーデンシティ品川御殿山(3,671㎡)、次いで八潮三丁目のJR貨物エフ・プラザ東京J棟(3,436㎡)、東品川三丁目の東京都下水道局東品川ポンプ所(区立東品川海上公園屋上庭園)(2,437㎡)、東五反田五丁目のNTT東日本関東病院(1,859㎡)、南品川六丁目の都立品川特別支援学校(1,819㎡)であった。



東京都下水道局東品川ポンプ所



都立品川特別支援学校

図 6-1 屋上緑地の事例

## 2) 建物用途別の屋上緑地状況

- 建物用途別では住宅が最も多く 1,514 箇所、50,738 m<sup>2</sup>であった。
- 小規模な屋上緑地の多くが住宅であった。

建物用途別の屋上緑地の状況を表 6-1 に示す。

建物用途は平成 28 年東京都都市計画地理情報システムの建物データを用いている。そのため新たに建築された建物の屋上緑地は、建物データがないことから、建物用途は不明とした。

箇所、面積ともに最も多い建物用途が住宅で 1,514 箇所、緑化面積 50,738 m<sup>2</sup>であった。次いで商業が 709 箇所、36,070 m<sup>2</sup>であった。住宅の屋上緑地は、大規模な集合住宅、独立住宅のベランダ等の屋上緑地が多く、小規模なものが多くなっている。

1 箇所当たりの緑化面積が大きい建物用途は供給処理施設 (320 m<sup>2</sup>)、学校 (300 m<sup>2</sup>)、その他の公共公益施設 (123 m<sup>2</sup>) であった。公共系の施設に大規模な屋上緑地が多く、学校や供給処理施設等は建物の面積規模が大きいことから、屋上緑地の面積規模も大きくなっている。

表 6-1 建物用途別の屋上緑地の状況

建物用途	箇所数	屋上緑地 面積 (m <sup>2</sup> )	1箇所当たり 面積 (m <sup>2</sup> /箇所)	建物面積 (参考) (m <sup>2</sup> )	建物緑化率 (参考) (%)
学校	53	15,882	300	98,562	16.1
供給処理施設	20	6,403	320	30,684	20.9
公園・鉄道・その他	2	80	40	925	8.7
その他の公共公益施設	85	10,457	123	83,584	12.5
商業	709	36,070	51	324,322	11.1
住宅	1,514	50,738	34	501,636	10.1
工業	151	13,868	92	73,196	18.9
不明	15	2,323	155	—	—
合計	2,549	135,821	53	—	—

※面積は、小数第 1 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

※建物面積は東京都都市計画地理情報システムの建物データの図形面積。

※建物緑化率は建物面積に占める屋上緑地面積の割合。

屋上緑地面積の規模別の状況を表 6-2 に示す。

住宅では住宅全体箇所数の約 9 割が 50 m<sup>2</sup>未満の小規模なものであるが、300 m<sup>2</sup>以上の屋上緑地も 27 箇所、16,089 m<sup>2</sup>が確認されている。商業施設も 50 m<sup>2</sup>未満のものが多いが、300 m<sup>2</sup>以上の大規模な屋上緑地は緑地面積では最も多くなっている。

学校や公共公益施設では、比較的面積規模の大きい屋上緑地が多いことが分かる。

表 6-2 規模別の建物用途別屋上緑地の状況

建物用途	単位	50m <sup>2</sup> 未満	50～100m <sup>2</sup>	100～300m <sup>2</sup>	300m <sup>2</sup> 以上	合計
学校	箇所数	7	8	19	19	53
	面積(m <sup>2</sup> )	196	657	3,370	11,659	15,882
供給処理施設	箇所数	8	2	5	5	20
	面積(m <sup>2</sup> )	150	168	789	5,296	6,403
公園・鉄道・その他	箇所数	1	1	0	0	2
	面積(m <sup>2</sup> )	30	51	0	0	80
その他の公共公益施設	箇所数	42	18	17	8	85
	面積(m <sup>2</sup> )	671	1,304	2,884	5,598	10,457
商業	箇所数	580	44	62	23	709
	面積(m <sup>2</sup> )	6,034	3,104	10,101	16,830	36,070
住宅	箇所数	1,322	81	84	27	1,514
	面積(m <sup>2</sup> )	14,046	5,760	14,843	16,089	50,738
工業	箇所数	120	10	12	9	151
	面積(m <sup>2</sup> )	1,472	798	2,163	9,435	13,868
不明	箇所数	5	4	3	3	15
	面積(m <sup>2</sup> )	26	263	542	1,492	2,323
合計	箇所数	2,085	168	202	94	2,549
	面積(m <sup>2</sup> )	22,625	12,104	34,693	66,399	135,821

※面積は、小数第 1 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

## 3) 区全体の屋上緑地状況変化

- 平成 26 年度調査と令和元年度調査の区全体の経年変化では、1,297 箇所減少し、緑地面積は 5,871 m<sup>2</sup>増加した。
- 供給処理施設とその他の公共公益施設では箇所数は増加したが、その他の建物用途の箇所数は減少した。
- 商業施設と用途不明の緑地面積は減少したが、その他の建物用途の緑地面積は増加した。

屋上緑地の建物用途別の経年変化を表 6-3 に示す。

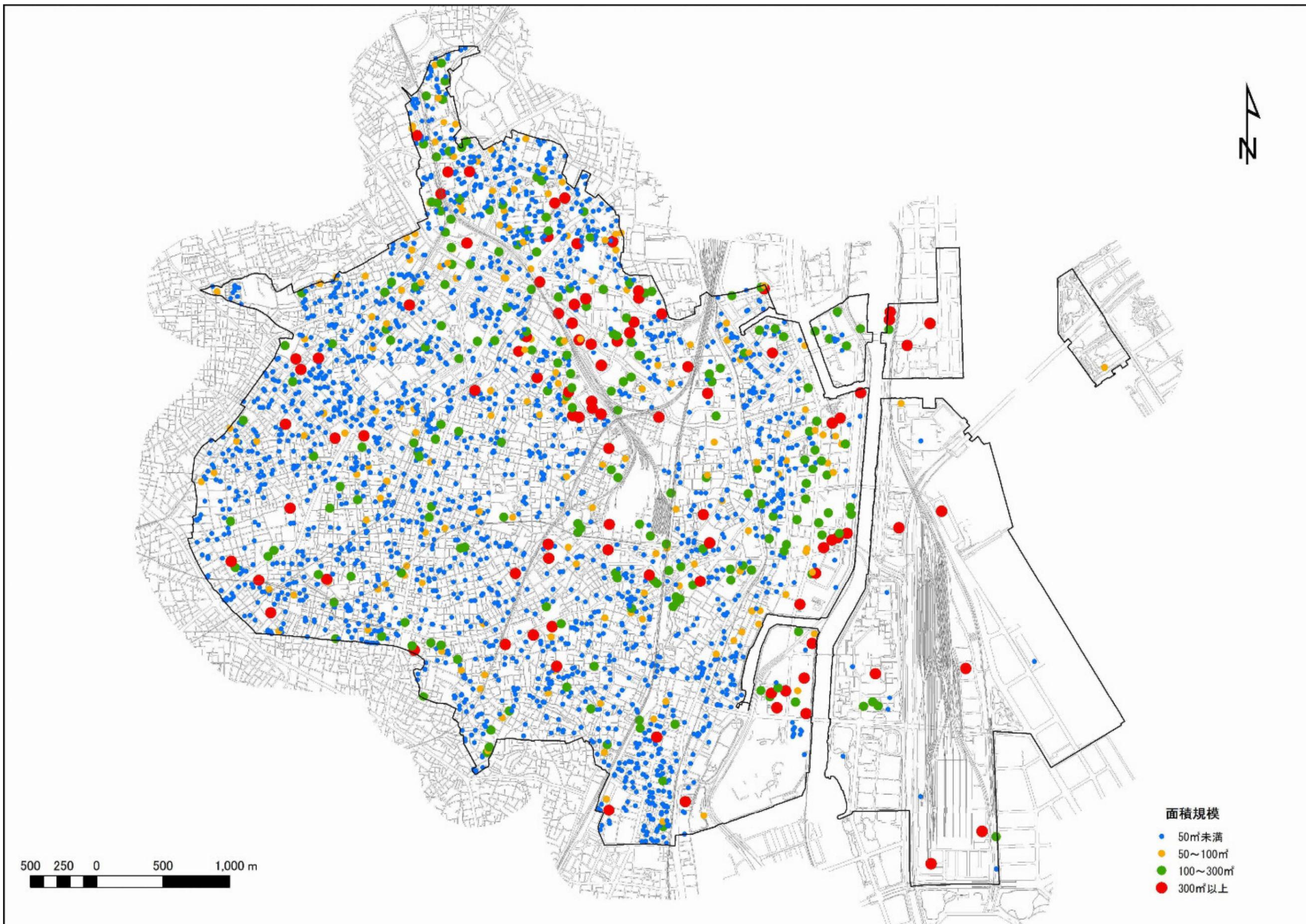
箇所数では供給処理施設は 9 箇所、その他の公共公益施設では 1 箇所増加したが、その他の建物用途は減少し、最も減少が大きい用途は住宅（810 箇所の減少）であった。緑地面積は商業が 321 m<sup>2</sup>減少したが、その他の建物用途は増加し、最も増加が大きい用途は住宅の 5,691 m<sup>2</sup>、次いでその他の公共公益施設が 3,382 m<sup>2</sup>、学校 2,474 m<sup>2</sup>であった。

住宅の屋上緑地が減少した多くの箇所では、平成 26 年度調査では屋上緑地があったが、本調査では消失していることが確認された。一方で、増加箇所は、新築や建替えに伴う増加が多く、大規模な屋上緑地箇所が増えたことから、箇所数は減少しても緑地面積が増加したと考えられる。

表 6-3 屋上緑地の建物用途別の経年変化

建物用途	平成26年度		令和元年度		変化	
	箇所数	面積(m <sup>2</sup> )	箇所数	面積(m <sup>2</sup> )	箇所数	面積(m <sup>2</sup> )
学校	60	13,408	53	15,882	-7	2,474
供給処理施設	11	5,909	20	6,403	9	494
公園・鉄道・その他	6	75	2	80	-4	5
その他の公共公益施設	84	7,075	85	10,457	1	3,382
商業	1,033	36,391	709	36,070	-324	-321
住宅	2,324	45,047	1,514	50,738	-810	5,691
工業	245	12,440	151	13,868	-94	1,428
不明	83	9,605	15	2,323	-68	-7,282
合計	3,846	129,950	2,549	135,821	-1,297	5,871

※面積は、小数第 1 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものです。(承認番号) 31都市基交著第60号

図 6-2 屋上緑地分布図

## 6-3 地区別の屋上緑地現況

### 1) 地区別の屋上緑地状況

- 屋上緑地箇所数が最も多い地区は荏原地区の912箇所であった。
- 屋上緑地面積が最も大きい地区は品川地区の40,042㎡であった。

地区別の屋上緑地の面積と箇所を表6-4、図6-3に示す。

屋上緑地の箇所数は荏原地区が最も多く912箇所、次いで大井地区605箇所、大崎地区604箇所であった。屋上緑地面積では品川地区が最も多く40,042㎡、次いで大崎地区36,740㎡、大井地区26,641㎡であった。

1ha当たりの箇所数及び緑地面積では大崎地区が最も多く、176箇所、10,711㎡であった。

表 6-4 地区別の屋上緑地の状況

地区名	地区面積 (ha)	箇所数	屋上緑地面積 (㎡)	1箇所あたり面積 (㎡/箇所)	1haあたり箇所数 (箇所/ha)	1haあたり面積 (㎡/ha)
品川地区	4.30	406	40,042	99	94	9,312
大崎地区	3.43	604	36,740	61	176	10,711
大井地区	4.73	605	26,641	44	128	5,632
荏原地区	5.81	912	24,474	27	157	4,212
八潮地区	4.57	22	7,924	360	5	1,734
合計	22.84	2,549	135,821	53	112	5,947

※屋上緑地面積は、小数第1位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

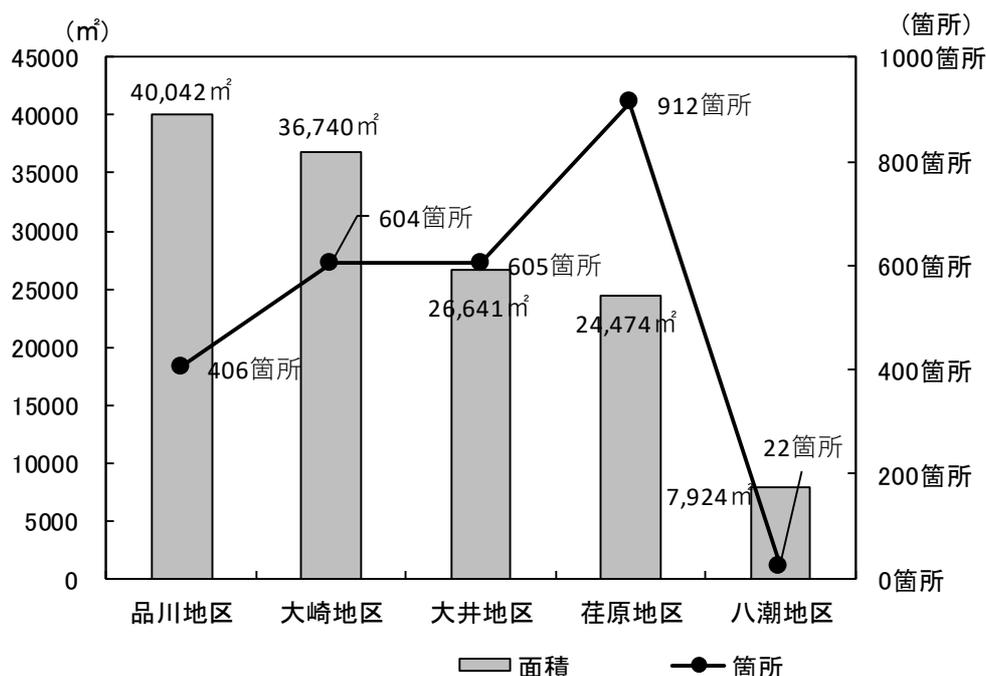


図 6-3 地区別の屋上緑地の箇所と面積

品川区みどりの実態調査

地区別の規模別屋上緑地の状況を表 6-5、地区別の屋上緑地規模別箇所の割合を図 6-4、地区別の屋上緑地規模別緑地面積の割合を図 6-5 に示す。

規模の小さい屋上緑地は荏原地区、大井地区に多く、両地区とも全体箇所数の 8 割以上が緑化面積 50 m<sup>2</sup>未満のものであった。また、大崎地区、品川地区では、緑地面積 100～300 m<sup>2</sup>未満の箇所数が比較的多いことが分かる。

屋上緑地面積では、荏原地区以外では 300 m<sup>2</sup>以上の緑地面積が多くなっているが、荏原地区は 50 m<sup>2</sup>未満の緑地面積が最も多い。荏原地区には木造住宅密集地域が広がっており、面積規模の小さい建築物が多いことから、小規模な屋上緑地が多くなっていると考えられる。また、品川地区では 300 m<sup>2</sup>以上の屋上緑地が 23,884 m<sup>2</sup>と 5 地区中最も多いが、北品川や京浜運河沿いに大規模な屋上緑地が分布していることによる。また、大崎地区においても大崎駅周辺の面積規模の大きい屋上緑地の分布がみられる。

表 6-5 地区別の規模別屋上緑地の状況

地区	単位	50m <sup>2</sup> 未満	50～100m <sup>2</sup>	100～300m <sup>2</sup>	300m <sup>2</sup> 以上	合計
品川地区	箇所数	287	35	58	26	406
	面積(m <sup>2</sup> )	3,806	2,538	9,814	23,884	40,042
大崎地区	箇所数	463	52	60	29	604
	面積(m <sup>2</sup> )	5,521	3,534	10,475	17,210	36,740
大井地区	箇所数	509	35	42	19	605
	面積(m <sup>2</sup> )	5,448	2,575	7,585	11,032	26,641
荏原地区	箇所数	816	44	38	14	912
	面積(m <sup>2</sup> )	7,674	3,302	5,961	7,537	24,474
八潮地区	箇所数	10	2	4	6	22
	面積(m <sup>2</sup> )	176	155	857	6,736	7,924
合計	箇所数	2,085	168	202	94	2,549
	面積(m <sup>2</sup> )	22,625	12,104	34,693	66,399	135,821

※面積は、小数第 1 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

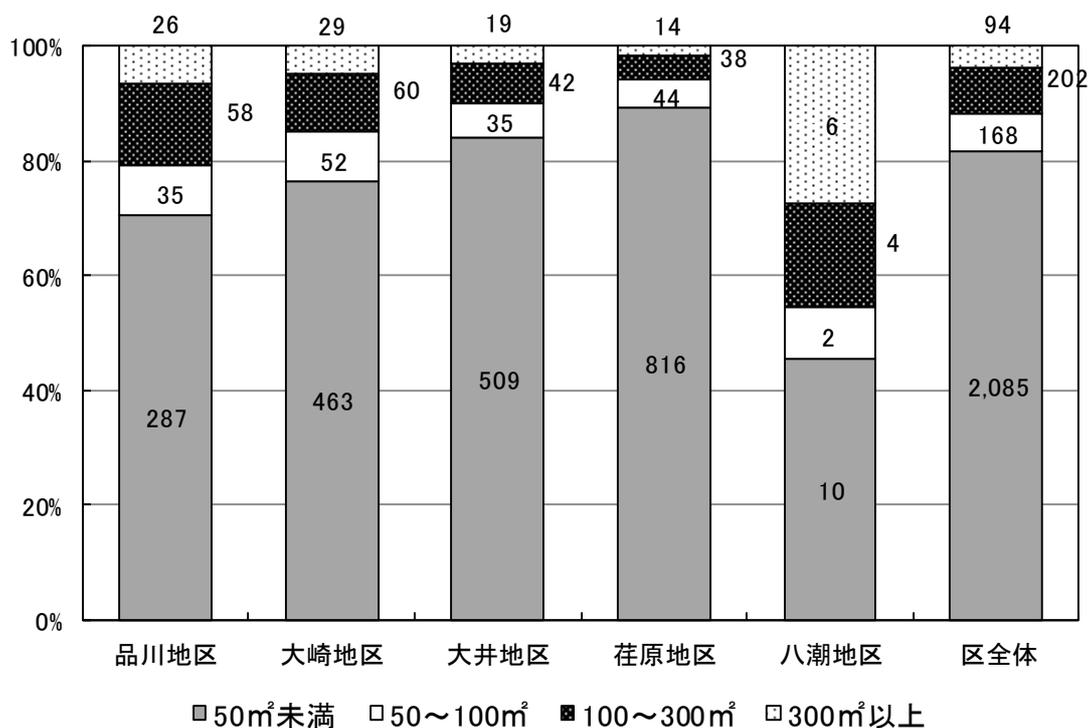


図 6-4 地区別の屋上緑地規模別箇所割合

※グラフ中の数字の単位は箇所

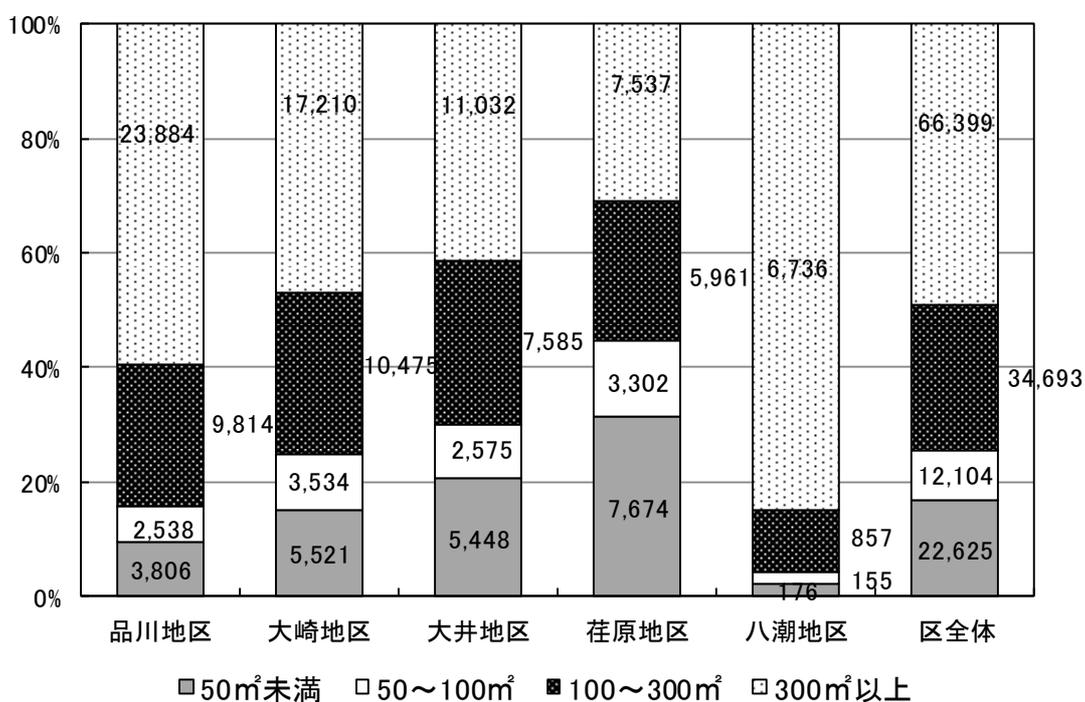


図 6-5 地区別の屋上緑地規模別緑地面積割合

※グラフ中の数字の単位は㎡

## 2) 地区別の屋上緑地状況変化

地区別の屋上緑地の変化状況を表 6-6 に示す。

箇所数では八潮地区を除く 4 地区において減少し、緑地面積では荏原地区のみ減少であった。

屋上緑地面積の増加が最も多い地区は品川地区の 8,110 m<sup>2</sup>であった。主な増加箇所は、北品川五丁目の業務系施設、広町一丁目の工場施設、東品川四丁目の集合住宅の建築に伴う新たな屋上緑地の整備である。

荏原地区では 742 箇所、緑地面積 4,689 m<sup>2</sup>の減少であった。平成 26 年度調査で確認された屋上緑地が、令和元年度調査では消失している箇所が多数確認されている。その多くが建築物の形状等には変化がないため、緑化が維持されなかったものと考えられる。また、荏原地区の屋上緑地は規模の小さいものが多く、消失した屋上緑地もほとんどが小規模なものであった。

表 6-6 屋上緑地の地区別経年変化

地区	平成26年度		令和元年度		変化	
	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )
品川地区	465	31,931	406	40,042	-59	8,110
大崎地区	788	36,683	604	36,740	-184	57
大井地区	923	24,946	605	26,641	-318	1,695
荏原地区	1,654	29,164	912	24,474	-742	-4,689
八潮地区	16	7,226	22	7,924	6	699
合計	3,846	129,950	2,549	135,821	-1,297	5,871

※面積は、小数第 1 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

## 第7章 樹林地調査

### 7-1 調査の方法

樹林地調査では、まとまりのある樹木群の分布状況等を把握するため、第3章緑被調査で得られた樹木被覆地のうち面積 300 m<sup>2</sup>以上、平均高さ 3m以上を樹林地として集計した。

樹林地の抽出方法は、緑被データのうち樹木被覆地データを抽出し、東京都土地利用現況調査データを重ね合わせ、道路上のものは樹林地対象外として除いている。そして、東京都土地利用データ 1 ポリゴンにおいて、面積 300 m<sup>2</sup>以上の樹木被覆地データを抽出した。さらに面積 300 m<sup>2</sup>以上の樹木被覆地について、空中写真の画像マッチングによって生成したデジタル表層モデル (DSM) と航空レーザから作成したデジタル標高モデル (DEM) より平均高さを計測し、高さ 3m以上を抽出し、樹林地データとした。樹林地高さの計測について、以下に示す。

なお、箇所数などの集計にあたっては、抽出された図形毎に 1 箇所としている。

#### 1) 空中写真による数値表層モデルの作成について

令和元年度調査では、緑被地調査の空中写真を高密度で撮影しており、高精度の数値表層モデル (DSM) を作成することが可能となっている。そこで緑被判読作業に用いた空中写真から作成した DSM を用いて、樹林地の平均高さ等を測定した。

緑被地調査に用いた空中写真から作成した DSM を用いることによって、時間や時期のずれのない樹木または樹林地の高さを得ることが可能である。

高密度撮影の空中写真は、互いに 80%前後の重複率となり、地上の同じ場所について異なる複数の視点からの画像が得られる。DSM はこの性質を利用して、近年盛んに用いられている SfM (Structure from Motion)<sup>(1)</sup> 技術により作成した。

- (1) SfM : 動画や静止画等カメラの視点撮影した複数枚の画像からそのシーンの 3次元形状とカメラ位置を同時に復元する要素技術。

## 2) デジタル標高モデル (DEM) について

空中写真データによる DSM データでは、精度の高い地面の高さが得られないため、航空レーザ点群から作成した DEM を用いることとした。用いた DEM は、調査機関のアーカイブデータである。

## 3) 樹林地高さの計測

前項までの DSM から DEM を引くと、樹木などの地物の地面からの高さを求めることができる (図 7-1)。以下、このデータを高さデータという。

本業務では、まず樹木の高さを求めた後、樹林地の平均高さを算出した。

樹林地ポリゴンを用いて、高さデータから樹林地の範囲を切り出し、樹林地ごとの高さを算出した (図 7-2)。

- ・ DSM (海面からの高さ、地物の高さも含む)
- ・ DEM (地面の高さ)
- ・ 高さデータ (DSM から DEM を引いたもの、樹木や建物など地物の地面からの高さ)

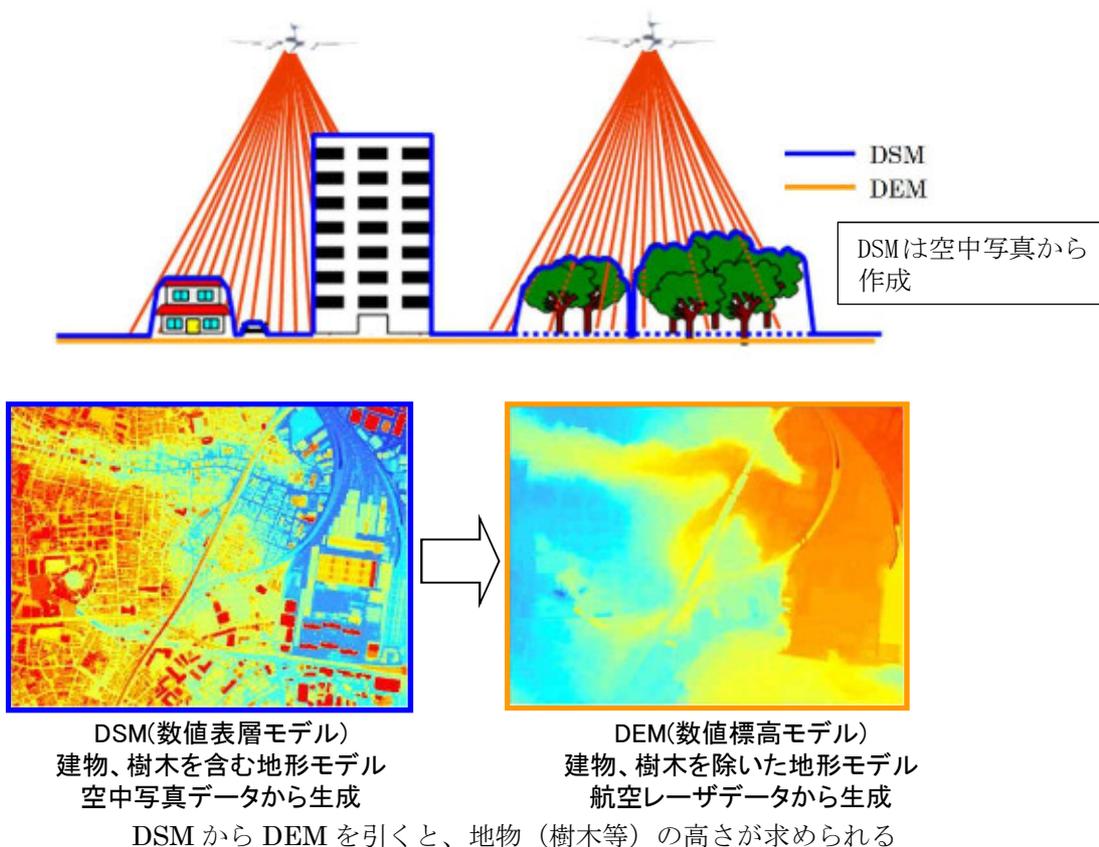


図 7-1 航空測量データから作成される地形データ

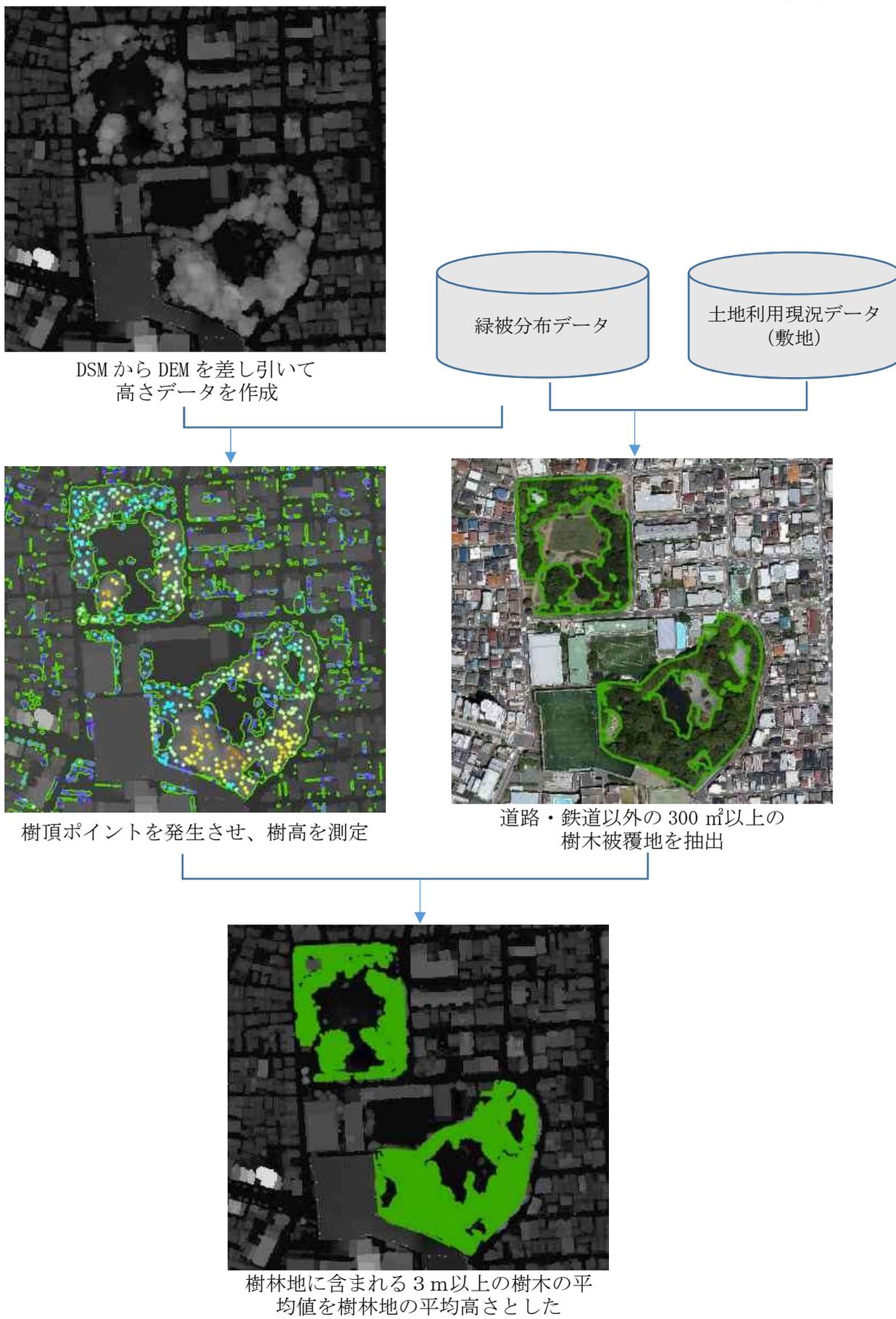


図 7-2 樹林地高さの算出手順

## 7-2 区全体の樹林地現況

### 1) 区全体の樹林地状況

- 区全体の樹林地は 856 箇所、115.2ha であった。

区全体の樹林地の状況を表 7-1、樹林地分布図を図 7-4 に示す。

区全体の樹林地は 856 箇所、115.2ha で、1 箇所当たりの平均面積は 1,346 m<sup>2</sup>であった。

最も面積が大きい樹林地は大井ふ頭中央海浜公園のなぎさの森に位置し、面積 61,375 m<sup>2</sup>であった。次いで林試の森公園 (55,385 m<sup>2</sup>)、大井埠頭中央海浜公園のスポーツの森 (43,781 m<sup>2</sup>)、大井ふ頭緑道公園 (40,606 m<sup>2</sup>) であり、大規模な樹林地の多くが公園内の樹林地であった。

表 7-1 区全域の面積規模別樹林地の状況

面積規模	箇所	面積(ha)
300～500m <sup>2</sup>	395	15.1
500～1000m <sup>2</sup>	265	18.6
1000～3000m <sup>2</sup>	144	24.5
3000～5000m <sup>2</sup>	22	8.2
5000～10000m <sup>2</sup>	17	11.8
10000m <sup>2</sup> 以上	13	37.1
区全域	856	115.2

※面積は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

## 2) 土地利用別の樹林地状況

- 公共系の樹林地は 344 箇所、76.9ha であった。
- 民間系の樹林地は 512 箇所、38.3ha であった。
- 公園、運動場等に最も多く 196 箇所、61.5ha であった。

土地利用区別の面積規模別樹林地の状況を表 7-2、面積規模別の樹林地箇所の割合を図 7-3 に示す。

公共系のうち、公園、運動場等以外で樹林地の多い土地利用は学校（60 箇所、5.7ha）、供給施設（22 箇所、4.0ha）であった。

民間系では、樹林地の多い土地利用は集合住宅（150 箇所、10.8ha）、独立住宅（106 箇所、5.9ha）、商業施設（98 箇所、8.3ha）、宗教施設（59 箇所、5.8ha）であった。

規模の大きい樹林地は公園や学校等の公共系に多いが、民間系の土地利用においても面積規模の大きい樹林地がみられる。主な民有地の樹林地は北品川三丁目の品川神社、大崎駅周辺の大規模民間施設、八潮五丁目の都市機構の集合住宅等であった。

表 7-2 土地利用区別の面積規模別樹林地の状況

土地利用区分	300～500㎡		500～1000㎡		1000～3000㎡		3000～5000㎡		5000～10000㎡		10000㎡以上		合計		
	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	
公共系	学校	33	1.2	17	1.0	8	1.6	1	0.4	0	0.0	1	1.4	60	5.7
	供給施設	5	0.2	5	0.3	10	1.6	1	0.5	0	0.0	1	1.4	22	4.0
	処理施設	2	0.1	5	0.3	7	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	14	1.6
	公園、運動場等	76	2.9	45	3.1	38	6.9	12	4.3	14	10.0	11	34.3	196	61.5
	鉄道等	10	0.4	4	0.3	2	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	16	0.9
	官公庁施設	5	0.2	3	0.2	3	0.3	1	0.3	0	0.0	0	0.0	12	1.1
	文化施設	4	0.2	2	0.1	5	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	1.3
	医療施設	4	0.1	4	0.3	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9	0.6
	厚生施設	2	0.1	1	0.1	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	0.3
	計	141	5.4	86	5.8	75	13.1	15	5.5	14	10.0	13	37.1	344	76.9
民間系	宗教施設	23	0.9	21	1.6	14	2.9	1	0.5	0	0.0	0	0.0	59	5.8
	商業施設	40	1.5	40	2.8	14	2.2	3	1.1	1	0.6	0	0.0	98	8.3
	独立住宅	65	2.4	36	2.5	4	0.5	0	0.0	1	0.5	0	0.0	106	5.9
	集合住宅	72	2.8	52	3.8	24	3.6	2	0.6	0	0.0	0	0.0	150	10.8
	工場等	28	1.1	13	0.9	6	0.9	0	0.0	1	0.8	0	0.0	48	3.6
	その他	26	1.0	17	1.3	7	1.2	1	0.4	0	0.0	0	0.0	51	3.9
	計	254	9.7	179	12.7	69	11.4	7	2.7	3	1.9	0	0.0	512	38.3
合計	395	15.1	265	18.6	144	24.5	22	8.2	17	11.8	13	37.1	856	115.2	

※面積は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

品川区みどりの実態調査

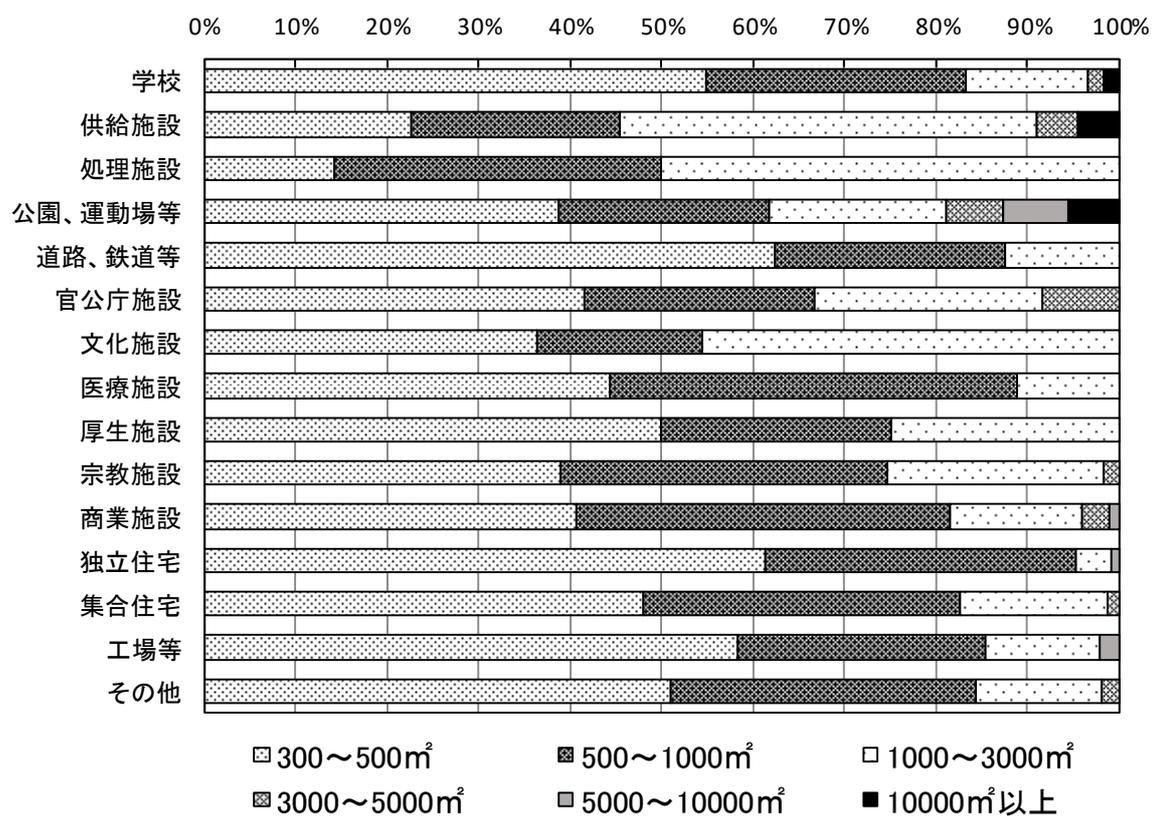
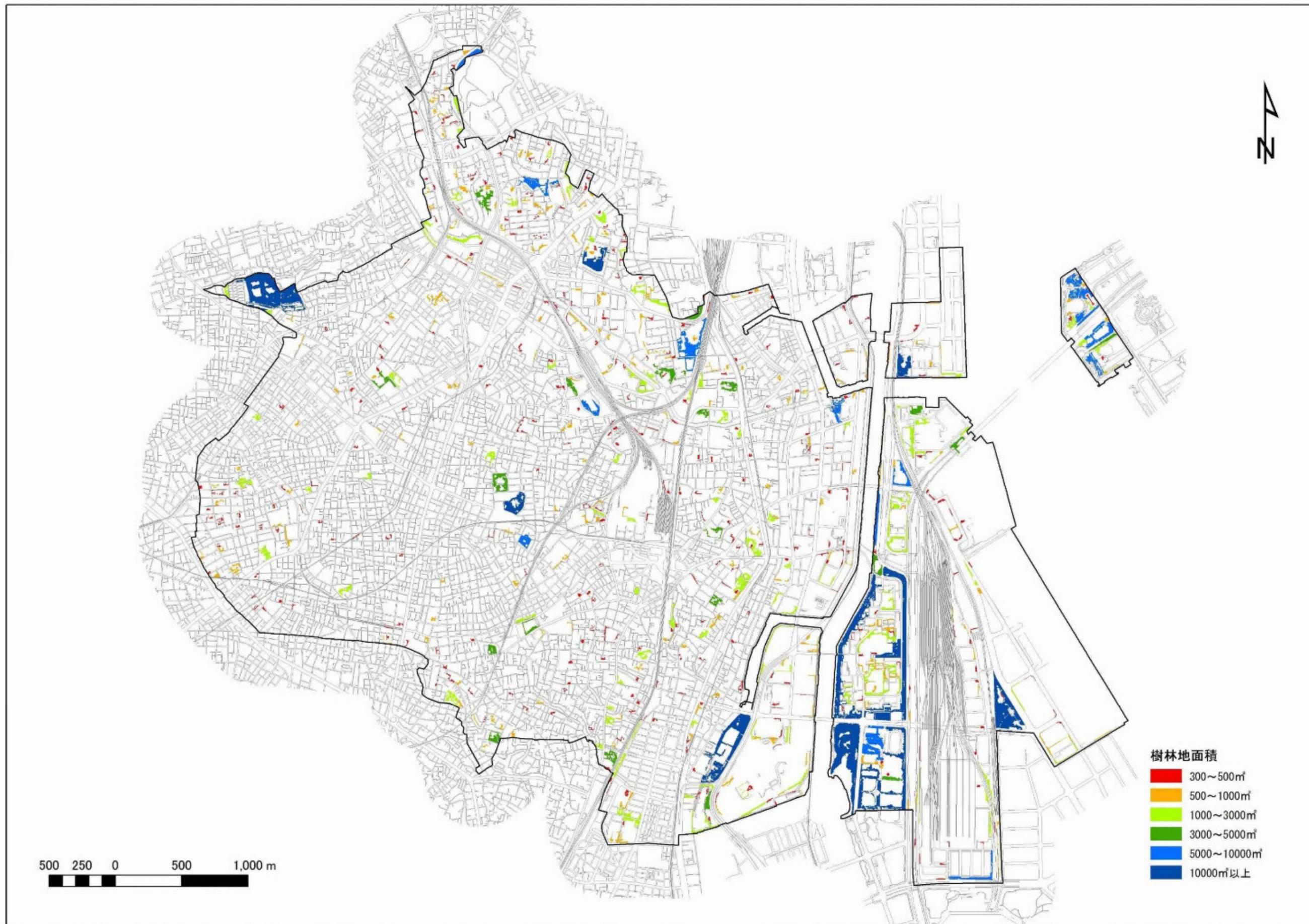


図 7-3 土地利用別の面積規模別樹林地箇所の割合



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)31都市基交著第60号

図 7-4 樹林地分布図

## 7-3 地区別の樹林地の現況

- 樹林地箇所数が最も多いのは大井地区で 200 箇所 (20.0ha) であった。
- 樹林地面積が最も大きいのは八潮地区で 48.3ha (196 箇所) であった。

地区別の面積規模別樹林地の状況を表 7-3、地区別の樹林地面積と樹林地率を表 7-4、地区別の面積規模別樹林地箇所の割合を図 7-5 に示す。

樹林地箇所が最も多い地区は大井地区の 200 箇所、樹林地面積が最も大きい地区は八潮地区の 48.3ha であった。大井地区では面積規模が 300～500 m<sup>2</sup>の樹林地が 100 箇所あり、小規模な樹林地が多い。10,000 m<sup>2</sup>以上の樹林地も 2 箇所あるが、5,000～10,000 m<sup>2</sup>規模は確認できなかった。八潮地区の樹林地面積は 48.3ha と最も大きく、箇所数も 196 箇所と 2 番目に多い。面積規模が 10,000 m<sup>2</sup>以上の樹林地は 7 箇所、23.6ha、5,000～10,000 m<sup>2</sup>のものは 11 箇所、8.1ha と、他地区と比較して大規模な樹林地が多い。これらの多くが臨海部の公園に分布している。

一方、樹林地箇所数が最も少ない地区は、荏原地区で 110 箇所、樹林地面積が最も小さい地区は大崎地区で 14.8ha であった。荏原地区は地区面積が 581ha と最も大きい、樹林地率（地区面積に対する樹林地面積の割合）は 2.76%である。大崎地区は地区面積が 343ha と最も小さく、樹林地率は 4.31%で、樹林地率では八潮地区に次いで 2 番目であった。

表 7-3 地区別の面積規模別樹林地の状況

地区	300～500m <sup>2</sup>		500～1000m <sup>2</sup>		1000～3000m <sup>2</sup>		3000～5000m <sup>2</sup>		5000～10000m <sup>2</sup>		10000m <sup>2</sup> 以上		合計	
	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)
品川地区	91	3.5	55	3.8	26	4.2	5	1.9	2	1.4	1	1.4	180	16.1
大崎地区	84	3.2	58	4.1	22	3.6	2	0.7	3	1.7	1	1.4	170	14.8
大井地区	100	3.9	56	3.9	36	6.3	6	2.1	0	0.0	2	3.8	200	20.0
荏原地区	53	1.9	36	2.5	15	2.9	3	1.3	1	0.5	2	6.9	110	16.0
八潮地区	67	2.5	60	4.3	45	7.5	6	2.2	11	8.1	7	23.6	196	48.3
合計	395	15.1	265	18.6	144	24.5	22	8.2	17	11.8	13	37.1	856	115.2

※面積は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

表 7-4 地区別の樹林地面積と樹林地率

地区	地区面積(ha)	樹林地面積(ha)	樹林地率(%)
品川地区	430	16.1	3.75
大崎地区	343	14.8	4.31
大井地区	473	20.0	4.24
荏原地区	581	16.0	2.76
八潮地区	457	48.3	10.57
合計	2,284	115.2	5.05

※樹林地面積は小数第 2 位、樹林地率は小数第 3 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

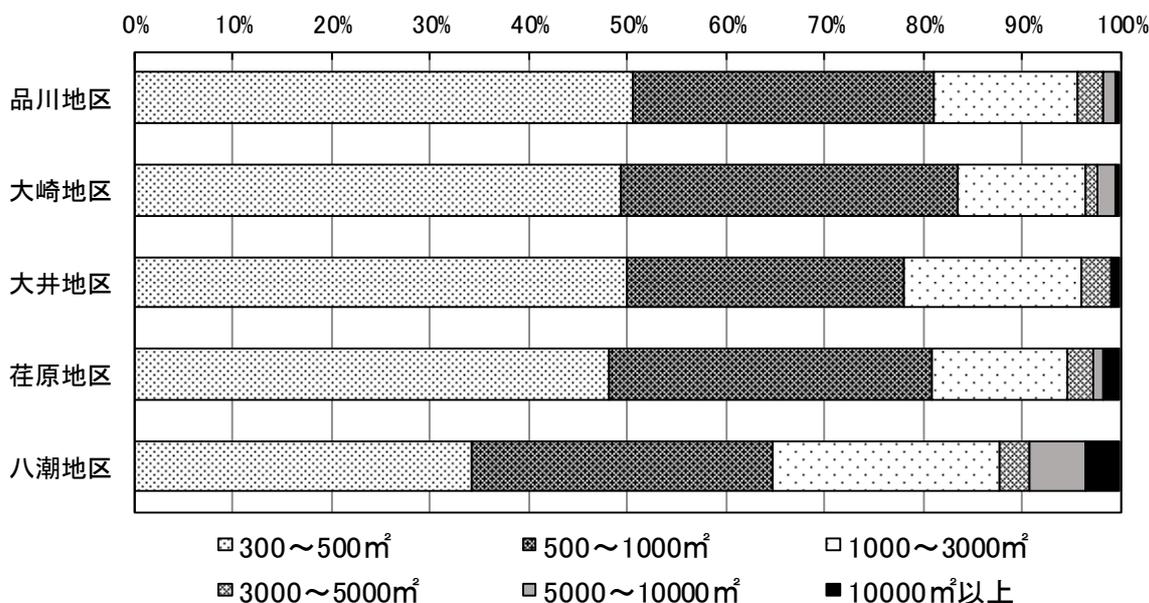


図 7-5 地区別の面積規模別樹林地箇所の割合

#### 7-4 樹林地の経年変化

- 樹林地箇所数は 251 箇所、樹林地面積は 12.3ha の増加であった。

平成 26 年度調査と令和元年度調査の樹林地規模別の箇所と面積の変化を表 7-5 に示す。

樹林地箇所数は 251 箇所、樹林地面積は 12.3ha の増加であった。箇所、面積ともに樹林地面積規模が小さいものの増加が多く、樹林地規模が 300～500 m<sup>2</sup>では 145 箇所、5.5ha、樹林地規模が 500～1,000 m<sup>2</sup>では 100 箇所、7.0ha の増加である。

表 7-5 樹林地規模別の箇所と面積の変化

面積規模	平成26年調査		令和元年調査		変化	
	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)
300～500m <sup>2</sup>	250	9.6	395	15.1	145	5.5
500～1000m <sup>2</sup>	165	11.6	265	18.6	100	7.0
1000～3000m <sup>2</sup>	140	22.5	144	24.5	4	2.0
3000～5000m <sup>2</sup>	21	8.1	22	8.2	1	0.1
5000～10000m <sup>2</sup>	16	10.5	17	11.8	1	1.3
10000m <sup>2</sup> 以上	13	40.7	13	37.1	0	-3.6
区全域	605	102.9	856	115.2	251	12.3

※樹林地面積は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

※今年度調査では高さを計測するデータとして航空レーザと空中写真を使用しているのに対し、平成 26 年度調査では航空レーザのみを使用した。

土地利用別の樹林地箇所と面積の変化を表 7-6 に示す。

公共系施設の樹林地は 56 箇所、2.3ha の増加であった。公共系施設のうち、樹林地面積の増加が最も大きい土地利用は供給施設で、2.1ha の増加であった。樹林地箇所の増加最も多いのは公園、運動場等で 72 箇所の増加であった。鉄道等は 63 箇所、4.3ha の減少であった。

民間系施設の樹林地は 195 箇所、10.0ha の増加であった。樹林地の増加が最も大きい土地利用は集合住宅で、72 箇所 (5.0ha) の増加、次いで商業施設で、37 箇所 (2.2ha) の増加であった。

表 7-6 土地利用別の樹林地箇所と面積の変化

土地利用区分		平成26年調査		令和元年調査		変化	
		箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)
公共系	学校	41	5.0	60	5.7	19	0.6
	供給施設	14	1.8	22	4.0	8	2.1
	処理施設	1	0.1	14	1.6	13	1.4
	公園、運動場等	124	59.6	196	61.5	72	1.9
	鉄道等	79	5.3	16	0.9	-63	-4.3
	官公庁施設	13	1.1	12	1.1	-1	0.0
	文化施設	10	1.2	11	1.3	1	0.1
	医療施設	5	0.3	9	0.6	4	0.3
	厚生施設	1	0.1	4	0.3	3	0.2
	計	288	74.6	344	76.9	56	2.3
民間系	宗教施設	48	5.9	59	5.8	11	-0.1
	商業施設	61	6.1	98	8.3	37	2.2
	独立住宅	79	5.4	106	5.9	27	0.5
	集合住宅	78	5.8	150	10.8	72	5.0
	工場等	31	2.6	48	3.6	17	1.1
	その他	20	2.7	51	3.9	31	1.2
	計	317	28.3	512	38.3	195	10.0
合計	605	102.9	856	115.2	251	12.3	

※樹林地面積は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

※今年度調査では高さを計測するデータとして航空レーザと空中写真を使用しているのに対し、平成 26 年度調査では航空レーザのみを使用した。

地区別の樹林地箇所と面積の変化を表 7-7 に示す。

樹林地面積が最も増加したのは大井地区の 70 箇所、樹林地面積が最も増加したのは品川地区の 4.7ha であった。

表 7-7 地区別の樹林地箇所と面積の変化

地区	平成26年調査		令和元年調査		変化	
	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)
品川地区	119	11.4	180	16.1	61	4.7
大崎地区	129	12.7	170	14.8	41	2.1
大井地区	130	19.4	200	20.0	70	0.7
荏原地区	95	15.1	110	16.0	15	0.9
八潮地区	132	44.4	196	48.3	64	3.9
合計	605	102.9	856	115.2	251	12.3

※樹林地面積は小数第 2 位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

※今年度調査では高さを計測するデータとして航空レーザと空中写真を使用しているのに対し、平成 26 年度調査では航空レーザのみを使用した。

## 第8章 壁面緑化調査

---

### 8-1 調査の方法

壁面緑化調査は平成21年度調査以来の実施である。

#### 1) 壁面緑化の定義

調査対象とする壁面緑化の定義は以下のとおりとした。

- ・ 建築物の壁面を登はんまたは下垂するもの。
- ・ ネットや支柱などの支持体に植物を絡ませて壁面を緑化するもの。
- ・ 壁面設置した植栽基盤に植物を生育させるもの（移動可能なプランター等は除く）。
- ・ 外観上管理されていないと思われる自然発生的な壁面緑化は調査対象外とする。
- ・ ヘチマやニガウリ等の季節性のある壁面緑化は調査対象外とする。

#### 2) 調査の方法

高架道路を除く区内全域の道路に面する建物、擁壁の壁面、河川の護岸部分を調査対象とし、現地にて目視により確認した緑化面積10㎡以上の壁面緑化について、次の項目について調査した。

- ・ 所在地名（町丁目まで）
- ・ 建物用途
- ・ 緑化延長（m）
- ・ 緑化面積（㎡）
- ・ 主要構成樹種

## 8-2 壁面緑化現況

### 1) 地区別の壁面緑化状況

- 区全域の壁面緑化は 158 箇所、11,143 m<sup>2</sup>であった。
- 箇所数では大崎地区の 92 箇所が最も多い。
- 緑化面積では大崎地区の 8,780 m<sup>2</sup>が最も大きい。

地区別の壁面緑化の状況を表 8-1、壁面緑化分布図を図 8-1 に示す。壁面緑化は区全体では 158 箇所、緑化面積 11,143 m<sup>2</sup>が確認できた。壁面緑化箇所、緑化面積ともに最も多いのが大崎地区で 92 箇所、8,780 m<sup>2</sup>であった。

表 8-1 地区別の壁面緑化の状況

地区	箇所	面積(m <sup>2</sup> )
品川地区	14	621
大崎地区	92	8,780
大井地区	27	1,041
荏原地区	24	581
八潮地区	1	120
合計	158	11,143

### 2) 建物用途別の壁面緑化状況

建物用途別の壁面緑化の状況を表 8-2 に示す。

最も壁面緑化が多い建物用途は河川護岸で 66 箇所、6,798 m<sup>2</sup>であった。目黒川には、景観に配慮するため護岸の河川側と道路側に壁面緑化が整備されており、箇所、面積ともに大きい。

次いで民間施設が 35 箇所、1,975 m<sup>2</sup>、個人住宅が 23 箇所、859 m<sup>2</sup>であった。

表 8-2 建物用途別の壁面緑化の状況

建物用途	箇所	面積(m <sup>2</sup> )
個人住宅	23	859
集合住宅	19	451
民間施設	35	1,975
公共施設	11	975
擁壁	4	85
河川護岸	66	6,798
合計	158	11,143

### 3) 樹種別の壁面緑化状況

樹種別の状況を表 8-3 に示す。

壁面緑化で最も多い樹種はツタの 129 箇所、9,935 m<sup>2</sup>であった。次いで混植が 12 箇所、875 m<sup>2</sup>であった。

表 8-3 樹種別の壁面緑化の状況

主な樹種	箇所	面積(m <sup>2</sup> )
ツタ	129	9,935
ジャスミン類	5	34
テイカカズラ	4	81
フジ	3	42
混植	12	875
その他	5	176
合計	158	11,143



図 8-1 壁面緑化分布図

## 4) 壁面緑化の経年変化

- 平成 21 年度調査と令和元年度調査の区全域の壁面緑化の経年変化では 129 箇所、5,944 m<sup>2</sup>の増加であった。
- 地区別の緑化面積では、品川地区が 1,306 m<sup>2</sup>の減少、八潮地区は変化なし、その他の地区は増加であった。
- 建物用途別の緑化面積では、増加が最も大きい用途が河川護岸の 2,820 m<sup>2</sup>であった。

地区別の壁面緑化の変化状況を表 8-4、建物用途別の経年変化を表 8-5 に示す。なお、平成 21 年度調査の河川護岸の箇所数は地区ごとに 1 箇所とし、本調査では壁面緑化のまとめりごとに 1 箇所とした。

区全体では 129 箇所、5,944 m<sup>2</sup>の増加であった。地区別の緑化面積では、大崎地区の増加が最も大きく 6,202 m<sup>2</sup>の増加、次いで大井地区が 883 m<sup>2</sup>、荏原地区が 165 m<sup>2</sup>の増加であった。品川地区は 1,306 m<sup>2</sup>の減少であった。

建物用途別の経年変化では、緑化面積の増加が最も大きい用途は河川護岸で 2,820 m<sup>2</sup>の増加、次いで民間施設が 1,682 m<sup>2</sup>、公共施設が 975 m<sup>2</sup>の増加であった。

表 8-4 地区別の壁面緑化の経年変化

地区	平成21年度調査		令和元年度調査		変化	
	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )
品川地区	4	1,927	14	621	10	-1,306
大崎地区	7	2,578	92	8,780	85	6,202
大井地区	3	158	27	1,041	24	883
荏原地区	14	416	24	581	10	165
八潮地区	1	120	1	120	0	0
合計	29	5,199	158	11,143	129	5,944

表 8-5 建物用途別の壁面緑化の経年変化

建物用途	平成21年度調査		令和元年度調査		変化	
	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )
個人住宅	15	622	23	859	8	237
集合住宅	4	306	19	451	15	145
民間施設	6	293	35	1,975	29	1,682
公共施設	0	0	11	975	11	975
擁壁	0	0	4	85	4	85
河川護岸	4	3,978	66	6,798	62	2,820
合計	29	5,199	158	11,143	129	5,944

## 第9章 まちづくり事業の緑化状況調査

### 9-1 調査の方法

本区では、市街地再開発事業等による拠点整備や木密地域における防災生活圏促進事業等による面的な整備を行い、都市基盤の整備、防災性の向上、地域特性に応じた魅力ある快適な都市空間の形成など、まちづくりを着実に推進している。

そこで、これらのまちづくり事業による緑化状況の変化を把握するため、事業が完了またはほぼ完了しているまちづくり事業 23 箇所、地区計画 27 地区を対象に、令和元年度、平成 26 年度、平成 21 年度の緑被データを用いて、緑被の変化状況の調査を行った。

調査対象のまちづくり事業を表 9-1、調査対象の地区計画地区を表 9-2 に示す。

表 9-1 調査対象のまちづくり事業

番号	分類	事業名	規模(ha)
1	拠点整備	天王洲地区(東品川二丁目地区)	20.0
2	拠点整備	品川駅東口地区	16.2
3	拠点整備	品川シーサイド駅周辺(東品川四丁目地区)	11.8
4	拠点整備	大崎駅東口第1地区(大崎ニューシティ)	3.0
5	拠点整備	大崎駅東口第2地区(ゲートシティ大崎)	5.9
6	拠点整備	東五反田二丁目第1地区(オーバルコート大崎)	1.9
7	拠点整備	大崎駅東口第3地区(アートヴィレッジ大崎)	2.5
8	拠点整備	東五反田二丁目第2地区(東京サザンガーデン)	1.8
9	拠点整備	北品川五丁目第一地区(パークシティ大崎)	3.6
10	拠点整備	大崎駅西口E地区(ThikPark)	0.2
11	拠点整備	大崎駅西中地区(大崎ウエストシティタワーズ)	1.8
12	拠点整備	大崎駅西口南地区(大崎ウイズシティ)	1.2
14	拠点整備	西品川一丁目地区	3.9
15	拠点整備	目黒駅前地区(Aゾーン)	2.3
15	拠点整備	目黒駅前地区(Bゾーン)	2.3
17	拠点整備	大井一丁目南第1地区(シティタワー大井町)	0.8
18	拠点整備	大井町駅西口D-1地区(K-1ビル)	0.5
19	拠点整備	大井町西地区(プリリア大井町ラヴィアンタワー)	0.4
20	拠点整備	大井町駅東口第一地区(きゅりあん)	1.2
21	拠点整備	西大井一丁目地区(コア・スターレ西大井)	1.1
22	拠点整備	西大井駅前南地区(Jタワー西大井)	0.8
30	安全な市街地形成	荏原町駅前地区防災街区整備事業(旗の台・中延地区)	0.1
32	安全な市街地形成	中延二丁目旧同潤会地区防災街区整備事業	0.7

表 9-2 調査対象の地区計画地区

番号	分類	事業名	規模(ha)
33	地区計画	東品川二丁目地区	20.0
34	地区計画	臨海副都心青海地区	117.0
35	地区計画	臨海副都心台場地区	71.0
36	地区計画	大崎駅東口第2地区	6.1
37	地区計画	品川駅東口地区	16.2
38	地区計画	西大井駅周辺地区	1.3
39	地区計画	西五反田三丁目地区	9.4
40	地区計画	東品川四丁目地区	13.9
41	地区計画	戸越一丁目地区	15.0
42	地区計画	大崎駅東口第3地区	4.8
43	地区計画	大崎駅西口地区	9.1
44	地区計画	東品川五丁目地区	6.7
45	地区計画	武蔵小山駅東地区	4.0
46	地区計画	東五反田二丁目地区	3.1
47	地区計画	品川区中原街道地区	9.6
48	地区計画	小山台一丁目地区	10.9
49	地区計画	北品川五丁目地区	5.4
50	地区計画	旧東海道南品川三丁目地区	2.0
51	地区計画	八潮五丁目地区	40.8
52	地区計画	滝王子通り地区	5.5
53	地区計画	目黒駅前地区	2.3
54	地区計画	広町一丁目周辺地区	17.2
55	地区計画	西品川一丁目地区	3.9
56	地区計画	大井一丁目南地区	1.7
57	地区計画	豊町四・五・六、二葉三・四、西大井六丁目地区	63.6
58	地区計画	戸越・豊町地区	54.3
59	地区計画	戸越六丁目東地区	4.5

## 9-2 まちづくり事業の緑化状況

### 1) まちづくり事業の緑被変化

調査対象のまちづくり事業の位置図を図9-1、平成21年度調査の緑被状況を表9-3、平成26年度調査の緑被状況を表9-4、令和元年度調査の緑被状況を表9-5に示し、令和元年度調査と平成26年度調査および平成21年度調査との比較を表9-6に示す。

平成21年度調査のまちづくり事業全体の緑被率は10.9%、緑被率が20%以上の事業は4箇所であった。平成26年度調査のまちづくり事業全体の緑被率は13.4%、緑被率が20%以上の事業は8箇所であった。令和元年度調査のまちづくり事業全体の緑被率は17.2%、緑被率が20%以上の事業は14箇所であり、緑被面積、緑被率は増加傾向にある。

まちづくり事業全体の緑被面積の変化では、平成26年度調査からは約3.1haの増加、平成21年度調査からは約5.0haの増加であった。



図 9-1 調査対象まちづくり事業位置図

表 9-3 平成 21 年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
1	天王洲地区(東品川二丁目地区)	208,664	22,496	2,334	115	24,946	12.0
2	品川駅東口地区	130,012	938	932	68	1,938	1.5
3	品川シーサイド駅周辺(東品川四丁目地区)	125,221	12,898	1,488	753	15,139	12.1
4	大崎駅東口第1地区(大崎ニューシティ)	19,291	1,816	13	1,322	3,152	16.3
5	大崎駅東口第2地区(ゲートシティ大崎)	43,996	8,756	714	251	9,721	22.1
6	東五反田二丁目第1地区(オーバルコート大崎)	17,950	2,380	0	0	2,380	13.3
7	大崎駅東口第3地区(アートヴィレッジ大崎)	38,702	5,954	208	1,981	8,143	21.0
8	東五反田二丁目第2地区(東京サザンガーデン)	20,787	1,079	274	186	1,539	7.4
9	北品川五丁目第一地区(パークシティ大崎)	34,673	1,981	0	36	2,018	5.8
10	大崎駅西口E地区(ThikPark)	24,047	5,022	879	455	6,356	26.4
11	大崎駅西中地区(大崎ウエストシティタワーズ)	13,076	634	57	1,143	1,833	14.0
12	大崎駅西口南地区(大崎ウィズシティ)	9,262	1,080	308	28	1,416	15.3
14	西品川一丁目地区	38,726	1,341	565	0	1,906	4.9
15	目黒駅前地区(Aゾーン)	12,702	245	146	1	392	3.1
15	目黒駅前地区(Bゾーン)	5,868	786	72	0	858	14.6
17	大井一丁目南第1地区(シティタワー大井町)	13,341	987	10	66	1,063	8.0
18	大井町駅西口D-1地区(K-1ビル)	4,606	150	0	0	150	3.3
19	大井町西地区(ブリリア大井町ラヴィアンタワー)	3,279	62	0	0	62	1.9
20	大井町駅東口第一地区(きゅりあん)	4,893	61	0	10	71	1.5
21	西大井一丁目地区(コア・スターレ西大井)	10,405	1,757	0	5	1,762	16.9
22	西大井駅前南地区(Jタワー西大井)	6,948	1,289	0	257	1,546	22.2
30	荏原町駅前地区防災街区整備事業(旗の台・中延地区)	1,043	0	1	0	1	0.1
32	中延二丁目旧同潤会地区防災街区整備事業	6,980	420	0	0	420	6.0
合計		794,473	72,132	7,999	6,678	86,810	10.9

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。  
 ※対象面積は図形面積とする。

表 9-4 平成 26 年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
1	天王洲地区(東品川二丁目地区)	208,664	25,145	3,412	286	28,844	13.8
2	品川駅東口地区	130,012	2,593	804	487	3,885	3.0
3	品川シーサイド駅周辺(東品川四丁目地区)	125,221	13,943	516	3,038	17,497	14.0
4	大崎駅東口第1地区(大崎ニューシティ)	19,291	1,980	16	1,754	3,750	19.4
5	大崎駅東口第2地区(ゲートシティ大崎)	43,996	10,271	412	358	11,041	25.1
6	東五反田二丁目第1地区(オーバルコート大崎)	17,950	3,751	122	0	3,873	21.6
7	大崎駅東口第3地区(アートヴィレッジ大崎)	38,702	8,516	704	3,003	12,224	31.6
8	東五反田二丁目第2地区(東京サザンガーデン)	20,787	3,874	236	856	4,965	23.9
9	北品川五丁目第一地区(パークシティ大崎)	34,673	170	25	7	202	0.6
10	大崎駅西口E地区(ThikPark)	24,047	5,857	293	537	6,687	27.8
11	大崎駅西中地区(大崎ウエストシティタワーズ)	13,076	1,398	30	1,494	2,923	22.4
12	大崎駅西口南地区(大崎ウィズシティ)	9,262	1,347	71	364	1,782	19.2
14	西品川一丁目地区	38,726	1,099	477	6	1,582	4.1
15	目黒駅前地区(Aゾーン)	12,702	118	86	0	204	1.6
15	目黒駅前地区(Bゾーン)	5,868	34	125	0	159	2.7
17	大井一丁目南第1地区(シティタワー大井町)	13,341	992	116	119	1,227	9.2
18	大井町駅西口D-1地区(K-1ビル)	4,606	267	0	0	267	5.8
19	大井町西地区(ブリリア大井町ラヴィアンタワー)	3,279	274	0	644	918	28.0
20	大井町駅東口第一地区(きゅりあん)	4,893	125	0	81	206	4.2
21	西大井一丁目地区(コア・スターレ西大井)	10,405	1,541	44	0	1,586	15.2
22	西大井駅前南地区(Jタワー西大井)	6,948	1,421	98	313	1,831	26.4
30	荏原町駅前地区防災街区整備事業(旗の台・中延地区)	1,043	0	0	0	0	0.0
32	中延二丁目旧同潤会地区防災街区整備事業	6,980	352	88	0	439	6.3
合計		794,473	85,069	7,673	13,347	106,090	13.4

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。  
 ※対象面積は図形面積とする。

表 9-5 令和元年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
1	天王洲地区(東品川二丁目地区)	208,664	24,424	4,459	782	29,665	14.2
2	品川駅東口地区	130,012	2,309	1,160	342	3,811	2.9
3	品川シーサイド駅周辺(東品川四丁目地区)	125,221	13,867	3,162	4,202	21,231	17.0
4	大崎駅東口第1地区(大崎ニューシティ)	19,291	2,520	76	1,737	4,333	22.5
5	大崎駅東口第2地区(ゲートシティ大崎)	43,996	9,484	701	526	10,711	24.3
6	東五反田二丁目第1地区(オーバルコート大崎)	17,950	3,836	7	0	3,842	21.4
7	大崎駅東口第3地区(アートヴィレッジ大崎)	38,702	7,867	609	3,488	11,964	30.9
8	東五反田二丁目第2地区(東京サザンガーデン)	20,787	4,798	78	811	5,686	27.4
9	北品川五丁目第一地区(パークシティ大崎)	34,673	6,201	704	2,193	9,098	26.2
10	大崎駅西口E地区(ThikPark)	24,047	6,397	200	710	7,307	30.4
11	大崎駅西中地区(大崎ウエストシティタワーズ)	13,076	1,720	65	1,483	3,268	25.0
12	大崎駅西口南地区(大崎ウィズシティ)	9,262	2,316	121	308	2,745	29.6
14	西品川一丁目地区	38,726	7,507	2,071	931	10,509	27.1
15	目黒駅前地区(Aゾーン)	12,702	2,280	424	361	3,064	24.1
15	目黒駅前地区(Bゾーン)	5,868	1,620	460	0	2,080	35.4
17	大井一丁目南第1地区(シティタワー大井町)	13,341	1,534	0	349	1,884	14.1
18	大井町駅西口D-1地区(K-1ビル)	4,606	149	0	80	229	5.0
19	大井町西地区(プリリア大井町ラヴィアンタワー)	3,279	318	0	562	880	26.8
20	大井町駅東口第一地区(きゅりあん)	4,893	114	0	111	225	4.6
21	西大井一丁目地区(コア・スターレ西大井)	10,405	1,292	24	3	1,319	12.7
22	西大井駅前南地区(Jタワー西大井)	6,948	1,342	207	312	1,861	26.8
30	荏原町駅前地区防災街区整備事業(旗の台・中延地区)	1,043	13	8	0	21	2.0
32	中延二丁目旧同潤会地区防災街区整備事業	6,980	831	253	84	1,168	16.7
合計		794,473	102,739	14,786	19,375	136,899	17.2

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。  
 ※対象面積は図形面積とする。

表 9-6 まちづくり事業の緑被変化

番号	事業名	平成26年度と令和元年の比較				平成21年度と令和元年の比較			
		樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)
1	天王洲地区(東品川二丁目地区)	-721	1,047	496	821	1,928	2,124	667	4,719
2	品川駅東口地区	-284	356	-145	-74	1,371	228	274	1,873
3	品川シーサイド駅周辺(東品川四丁目地区)	-75	2,647	1,163	3,735	969	1,675	3,448	6,092
4	大崎駅東口第1地区(大崎ニューシティ)	540	60	-17	583	704	63	415	1,181
5	大崎駅東口第2地区(ゲートシティ大崎)	-787	289	168	-330	728	-13	275	990
6	東五反田二丁目第1地区(オーバルコート大崎)	85	-116	0	-31	1,456	7	0	1,463
7	大崎駅東口第3地区(アートヴィレッジ大崎)	-650	-95	485	-260	1,913	401	1,507	3,820
8	東五反田二丁目第2地区(東京サザンガーデン)	924	-158	-45	721	3,719	-196	626	4,148
9	北品川五丁目第一地区(パークシティ大崎)	6,031	679	2,186	8,896	4,220	704	2,157	7,080
10	大崎駅西口E地区(ThikPark)	540	-93	173	620	1,374	-679	255	950
11	大崎駅西中地区(大崎ウエストシティタワーズ)	322	34	-11	345	1,086	8	340	1,434
12	大崎駅西口南地区(大崎ウィズシティ)	969	50	-56	963	1,236	-187	280	1,329
14	西品川一丁目地区	6,408	1,594	926	8,927	6,166	1,505	931	8,603
15	目黒駅前地区(Aゾーン)	2,162	337	361	2,860	2,034	278	360	2,673
15	目黒駅前地区(Bゾーン)	1,586	335	0	1,921	834	388	0	1,222
17	大井一丁目南第1地区(シティタワー大井町)	542	-116	230	656	547	-10	284	821
18	大井町駅西口D-1地区(K-1ビル)	-118	0	80	-38	-1	0	80	79
19	大井町西地区(ブリリア大井町ラヴィアンタワー)	44	0	-82	-38	256	0	562	818
20	大井町駅東口第一地区(きゅりあん)	-11	0	30	19	53	0	100	153
21	西大井一丁目地区(コア・スターレ西大井)	-249	-20	3	-267	-465	24	-2	-443
22	西大井駅前南地区(Jタワー西大井)	-79	109	-1	29	53	207	55	315
30	荏原町駅前地区防災街区整備事業(旗の台・中延地区)	13	8	0	20	13	7	0	20
32	中延二丁目旧同潤会地区防災街区整備事業	480	165	84	729	412	253	84	748
合計		17,670	7,113	6,027	30,809	30,607	6,786	12,696	50,089

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。

## 2) 地区計画地区の緑被変化

調査対象の地区計画地区の位置図を図 9-2、平成 21 年度調査の緑被状況を表 9-7、平成 26 年度調査の緑被状況を表 9-8、令和元年度調査の緑被状況を表 9-9 に示し、令和元年度調査と平成 26 年度調査および平成 21 年度調査との比較を表 9-10 に示す。

平成 21 年度調査の地区計画地区全体の緑被率は 16.3%、緑被率が 20%以上の地区は 5 地区であった。平成 26 年度調査の地区計画地区全体の緑被率は 16.8%、緑被率が 20%以上の地区は 6 地区であった。令和元年度調査の地区計画地区全体の緑被率は 17.3%、緑被率が 20%以上の地区は 10 地区であり、緑被面積、緑被率は増加傾向にある。なお、臨海副都心青海地区と台場地区の緑被率は 40%以上と高い。

地区計画地区全体の緑被面積の変化では、平成 26 年度調査からは約 1.6ha の増加、平成 21 年度調査からは約 3.5ha の増加であった。

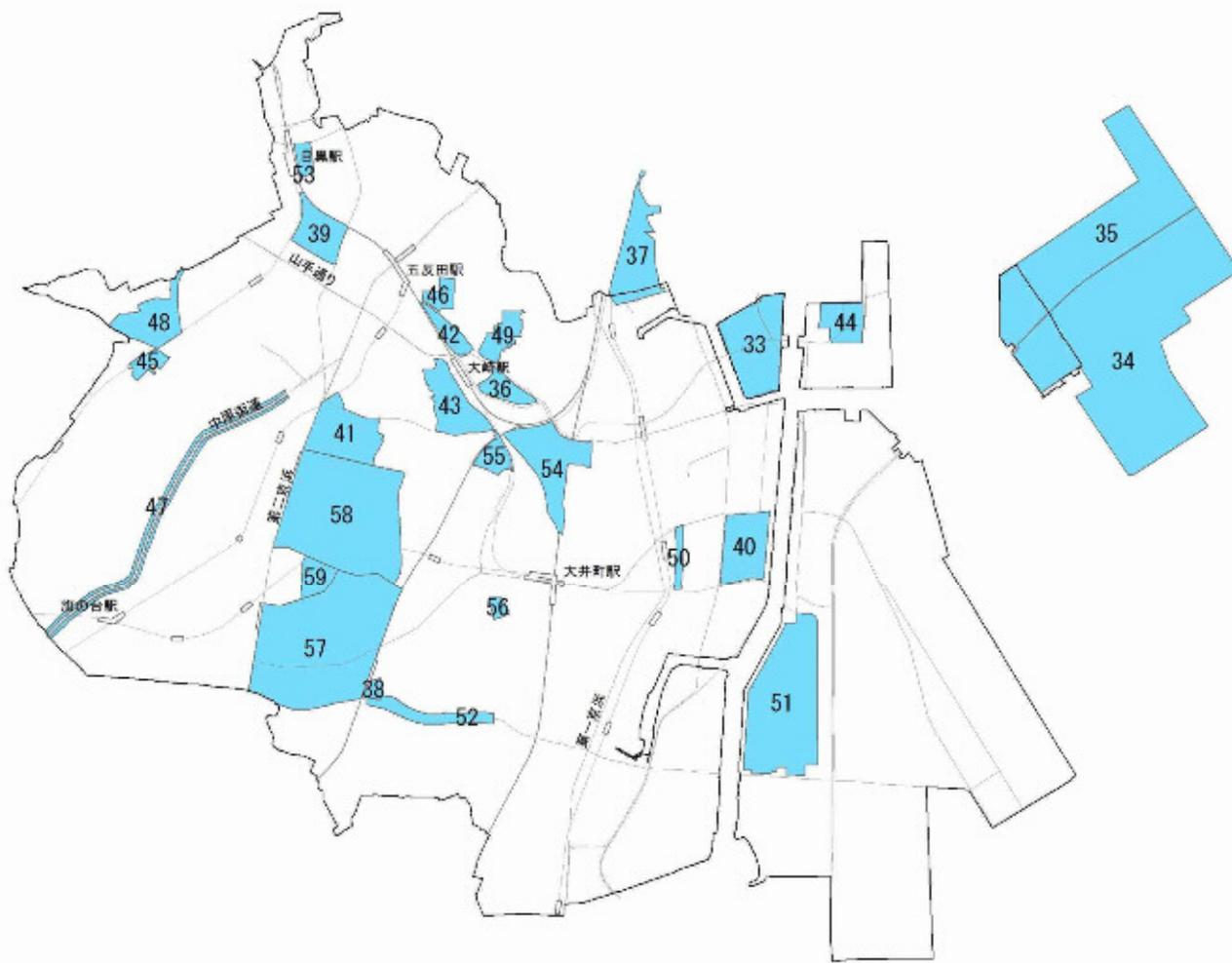


図 9-2 調査対象地区計画地区位置図

表 9-7 平成 21 年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
33	東品川二丁目地区	208,699	22,500	2,334	115	24,949	12.0
34	臨海副都心青海地区	126,209	42,447	14,153	0	56,599	44.8
35	臨海副都心台場地区	112,340	49,845	13,179	0	63,023	56.1
36	大崎駅東口第2地区	43,996	8,756	714	251	9,722	22.1
37	品川駅東口地区	160,088	2,366	157	235	2,758	1.7
38	西大井駅周辺地区	13,136	1,934	0	260	2,194	16.7
39	西五反田三丁目地区	87,171	12,497	9,383	895	22,775	26.1
40	東品川四丁目地区	125,176	12,894	1,488	753	15,135	12.1
41	戸越一丁目地区	150,840	14,200	1,295	668	16,162	10.7
42	大崎駅東口第3地区	48,137	6,283	348	1,981	8,612	17.9
43	大崎駅西口地区	116,431	11,320	1,427	2,145	14,892	12.8
44	東品川五丁目地区	65,744	5,943	175	1,127	7,244	11.0
45	武蔵小山駅東地区	26,526	903	5	172	1,080	4.1
46	東五反田二丁目地区	31,110	1,367	274	198	1,840	5.9
47	品川区中原街道地区	94,650	5,915	354	480	6,748	7.1
48	小山台一丁目防災街区整備地区	110,035	9,770	1,079	164	11,012	10.0
49	北品川五丁目地区	54,119	7,087	24	36	7,147	13.2
50	旧東海道南品川三丁目地区	20,298	1,134	45	105	1,284	6.3
51	八潮五丁目地区	407,366	122,916	6,522	841	130,279	32.0
52	滝王子通り地区	61,710	4,064	565	321	4,950	8.0
53	目黒駅前地区	21,581	1,332	391	1	1,724	8.0
54	広町一丁目周辺地区	170,521	16,321	5,411	53	21,785	12.8
55	西品川一丁目地区	38,736	1,347	565	0	1,912	4.9
56	大井一丁目南地区	13,340	987	10	66	1,063	8.0
57	豊町四・五・六、二葉三・四、西大井六丁目地区	635,580	56,698	4,361	1,538	62,596	9.8
58	戸越・豊町地区	543,262	70,753	4,091	847	75,691	13.9
59	戸越六丁目東地区	45,841	2,231	266	72	2,570	5.6
	合計	3,532,643	493,809	68,614	13,324	575,746	16.3

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。  
 ※対象面積は図形面積とする。

表 9-8 平成 26 年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
33	東品川二丁目地区	208,699	25,147	3,413	286	28,846	13.8
34	臨海副都心青海地区	126,209	34,041	17,357	0	51,398	40.7
35	臨海副都心台場地区	112,340	35,380	25,108	0	60,488	53.8
36	大崎駅東口第2地区	43,996	10,271	412	358	11,041	25.1
37	品川駅東口地区	160,088	4,370	635	647	5,652	3.5
38	西大井駅周辺地区	13,136	2,068	126	316	2,510	19.1
39	西五反田三丁目地区	87,171	12,913	4,809	1,164	18,886	21.7
40	東品川四丁目地区	125,176	13,937	510	3,038	17,486	14.0
41	戸越一丁目地区	150,840	11,869	1,317	990	14,176	9.4
42	大崎駅東口第3地区	48,137	9,064	836	3,003	12,904	26.8
43	大崎駅西口地区	116,431	18,421	902	3,739	23,063	19.8
44	東品川五丁目地区	65,744	5,358	710	1,126	7,193	10.9
45	武蔵小山駅東地区	26,526	1,365	11	979	2,355	8.9
46	東五反田二丁目地区	31,110	4,328	238	928	5,493	17.7
47	品川区中原街道地区	94,650	6,394	372	593	7,360	7.8
48	小山台一丁目防災街区整備地区	110,035	9,575	617	338	10,530	9.6
49	北品川五丁目地区	54,119	2,465	118	7	2,590	4.8
50	旧東海道南品川三丁目地区	20,298	1,051	43	98	1,192	5.9
51	八潮五丁目地区	407,366	122,166	12,684	960	135,810	33.3
52	滝王子通り地区	61,710	3,966	795	575	5,336	8.6
53	目黒駅前地区	21,581	230	370	0	600	2.8
54	広町一丁目周辺地区	170,521	15,313	7,286	102	22,701	13.3
55	西品川一丁目地区	38,736	1,107	477	6	1,590	4.1
56	大井一丁目南地区	13,340	992	116	119	1,227	9.2
57	豊町四・五・六、二葉三・四、西大井六丁目地区	635,580	52,935	7,522	3,707	64,165	10.1
58	戸越・豊町地区	543,262	68,657	7,118	1,511	77,287	14.2
59	戸越六丁目東地区	45,841	2,079	319	197	2,595	5.7
合計		3,532,643	475,465	94,221	24,788	594,474	16.8

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。  
 ※対象面積は図形面積とする。

表 9-9 令和元年度緑被状況

番号	事業名	対象面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	緑被率 (%)
33	東品川二丁目地区	208,699	24,425	4,460	782	29,668	14.2
34	臨海副都心青海地区	126,209	32,939	21,461	83	54,483	43.2
35	臨海副都心台場地区	112,340	33,712	18,059	0	51,771	46.1
36	大崎駅東口第2地区	43,996	9,485	701	526	10,711	24.3
37	品川駅東口地区	160,088	3,963	1,346	378	5,687	3.6
38	西大井駅周辺地区	13,136	1,943	207	312	2,462	18.7
39	西五反田三丁目地区	87,171	14,116	2,389	1,209	17,713	20.3
40	東品川四丁目地区	125,176	13,861	3,162	4,202	21,225	17.0
41	戸越一丁目地区	150,840	10,514	862	759	12,134	8.0
42	大崎駅東口第3地区	48,137	8,542	732	3,488	12,762	26.5
43	大崎駅西口地区	116,431	22,323	926	4,228	27,477	23.6
44	東品川五丁目地区	65,744	4,859	833	1,135	6,826	10.4
45	武蔵小山駅東地区	26,526	1,153	49	1,482	2,684	10.1
46	東五反田二丁目地区	31,110	5,268	78	822	6,167	19.8
47	品川区中原街道地区	94,650	5,256	331	387	5,974	6.3
48	小山台一丁目防災街区整備地区	110,035	9,175	534	201	9,910	9.0
49	北品川五丁目地区	54,119	9,142	861	2,856	12,860	23.8
50	旧東海道南品川三丁目地区	20,298	910	83	78	1,071	5.3
51	八潮五丁目地区	407,366	121,725	15,602	1,121	138,448	34.0
52	滝王子通り地区	61,710	3,263	739	312	4,314	7.0
53	目黒駅前地区	21,581	3,937	885	361	5,183	24.0
54	広町一丁目周辺地区	170,521	14,893	8,524	1,165	24,582	14.4
55	西品川一丁目地区	38,736	7,515	2,074	931	10,521	27.2
56	大井一丁目南地区	13,340	1,534	0	349	1,884	14.1
57	豊町四・五・六、二葉三・四、西大井六丁目地区	635,580	47,610	5,360	2,941	55,912	8.8
58	戸越・豊町地区	543,262	65,399	8,236	1,411	75,046	13.8
59	戸越六丁目東地区	45,841	2,097	317	377	2,792	6.1
	合計	3,532,643	479,557	98,811	31,896	610,264	17.3

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。  
 ※対象面積は図形面積とする。

表 9-10 地区計画地区の緑被変化

番号	事業名	平成26年度と令和元年の比較				平成21年度と令和元年の比較			
		樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)	樹木 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑化 (㎡)	緑被面積 (㎡)
33	東品川二丁目地区	-721	1,047	496	822	1,926	2,126	667	4,718
34	臨海副都心青海地区	-1,102	4,104	83	3,085	-9,507	7,308	83	-2,116
35	臨海副都心台場地区	-1,669	-7,049	0	-8,717	-16,133	4,880	0	-11,253
36	大崎駅東口第2地区	-787	289	168	-330	728	-13	275	990
37	品川駅東口地区	-407	711	-269	35	1,597	1,189	143	2,929
38	西大井駅周辺地区	-125	81	-5	-49	9	207	52	268
39	西五反田三丁目地区	1,203	-2,420	44	-1,173	1,619	-6,994	314	-5,062
40	東品川四丁目地区	-76	2,652	1,163	3,739	967	1,675	3,448	6,090
41	戸越一丁目地区	-1,355	-456	-232	-2,042	-3,686	-433	91	-4,028
42	大崎駅東口第3地区	-522	-104	485	-141	2,259	385	1,507	4,150
43	大崎駅西口地区	3,902	23	489	4,414	11,003	-502	2,083	12,585
44	東品川五丁目地区	-499	123	9	-367	-1,084	658	8	-418
45	武蔵小山駅東地区	-212	38	503	329	250	44	1,310	1,604
46	東五反田二丁目地区	940	-160	-106	674	3,901	-196	624	4,328
47	品川区中原街道地区	-1,138	-42	-206	-1,386	-659	-23	-92	-774
48	小山台一丁目防災街区整備地区	-400	-83	-137	-620	-595	-545	37	-1,103
49	北品川五丁目地区	6,677	744	2,849	10,270	2,055	838	2,820	5,713
50	旧東海道南品川三丁目地区	-142	40	-19	-121	-225	38	-27	-213
51	八潮五丁目地区	-441	2,918	161	2,638	-1,191	9,080	280	8,170
52	滝王子通り地区	-703	-56	-264	-1,022	-802	174	-9	-636
53	目黒駅前地区	3,706	515	361	4,583	2,605	494	360	3,459
54	広町一丁目周辺地区	-420	1,238	1,064	1,881	-1,428	3,113	1,113	2,797
55	西品川一丁目地区	6,408	1,597	926	8,931	6,168	1,510	931	8,609
56	大井一丁目南地区	542	-116	230	656	547	-10	284	821
57	豊町四・五・六、二葉三・四、西大井六丁目地区	-5,325	-2,162	-766	-8,253	-9,088	999	1,404	-6,685
58	戸越・豊町地区	-3,259	1,118	-100	-2,241	-5,354	4,146	564	-645
59	戸越六丁目東地区	18	-2	181	197	-134	51	305	222
合計		4,092	4,590	7,108	15,790	-14,252	30,197	18,572	34,518

※面積は小数第1位、緑被率は小数第2位を四捨五入しているため、集計値が合わない場合がある。